

82
650
607

副業の喜鵲

82-631

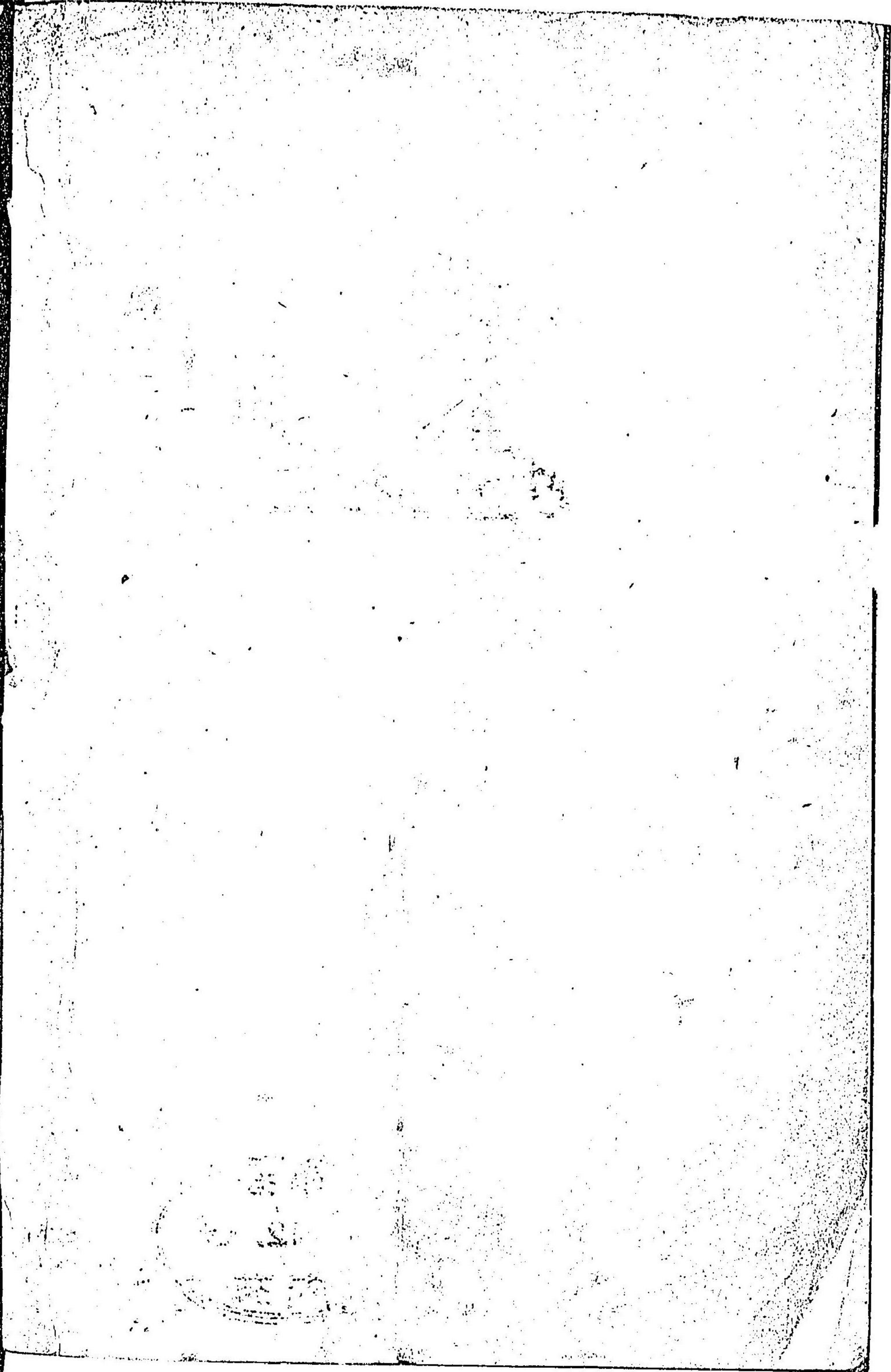


Large, bold, vertical calligraphic characters, likely reading '源氏物語' (Genji Monogatari).

Vertical calligraphic signature or inscription on the left side.



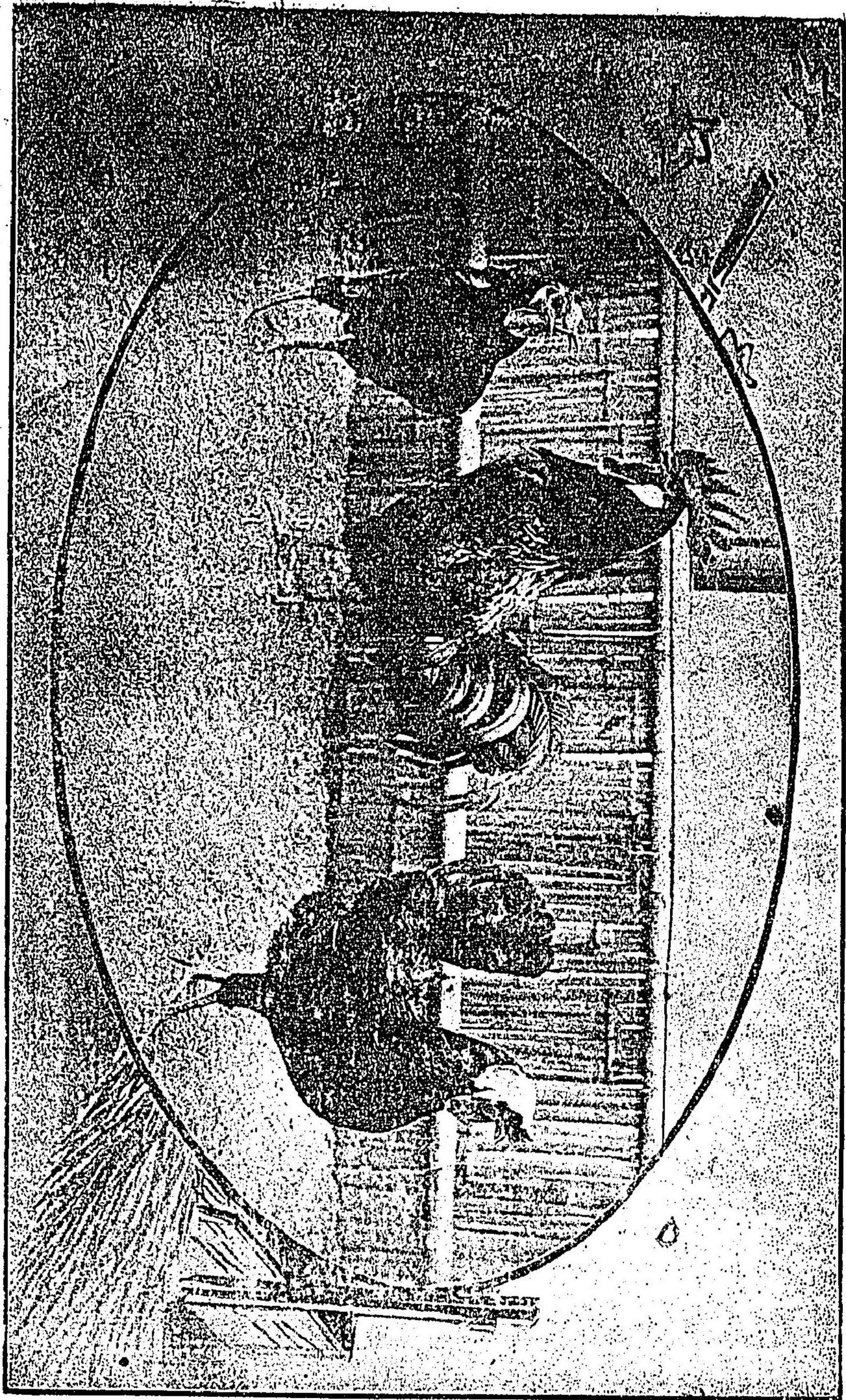
48.12.14
内交



實
海

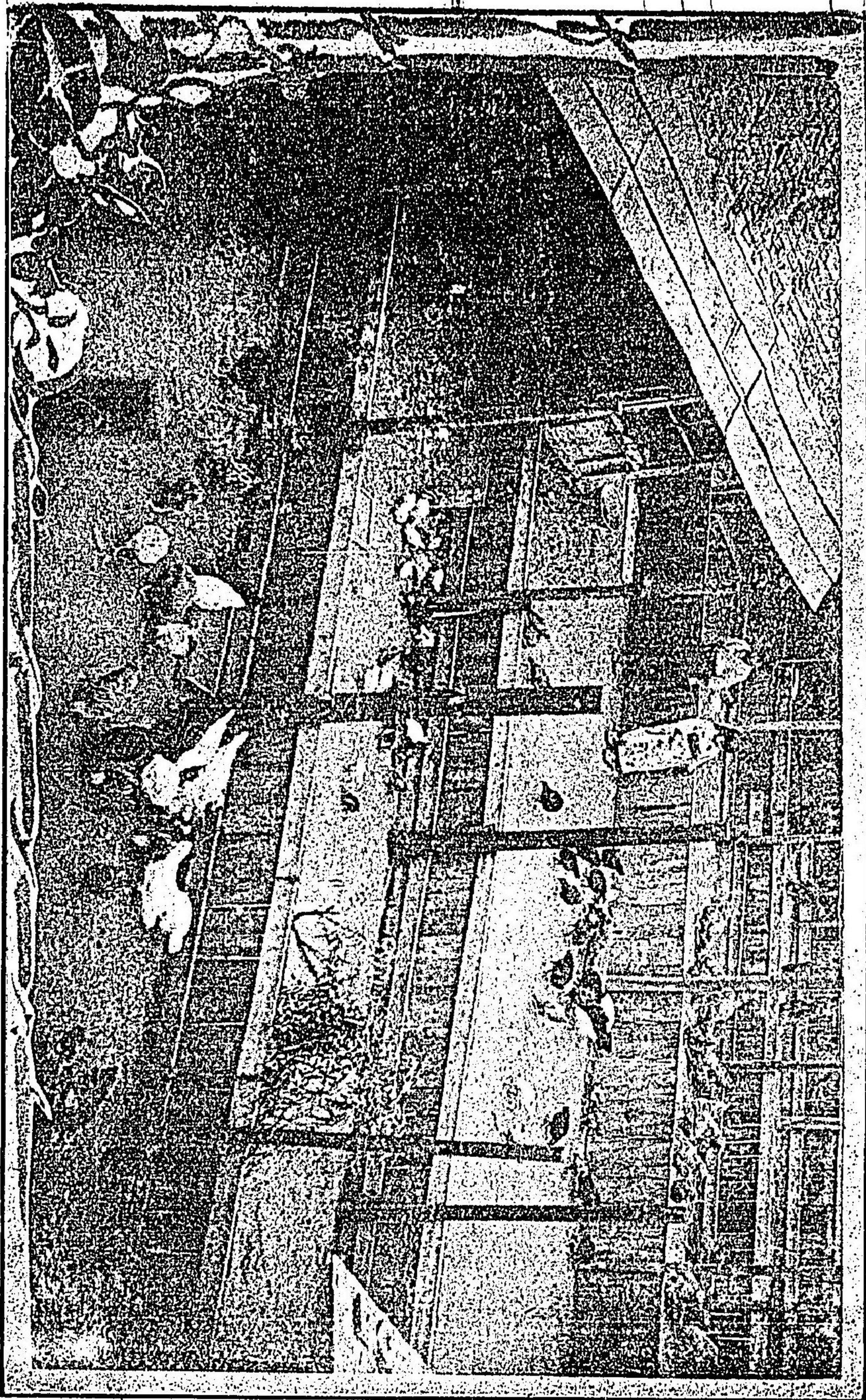
豐
水
也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

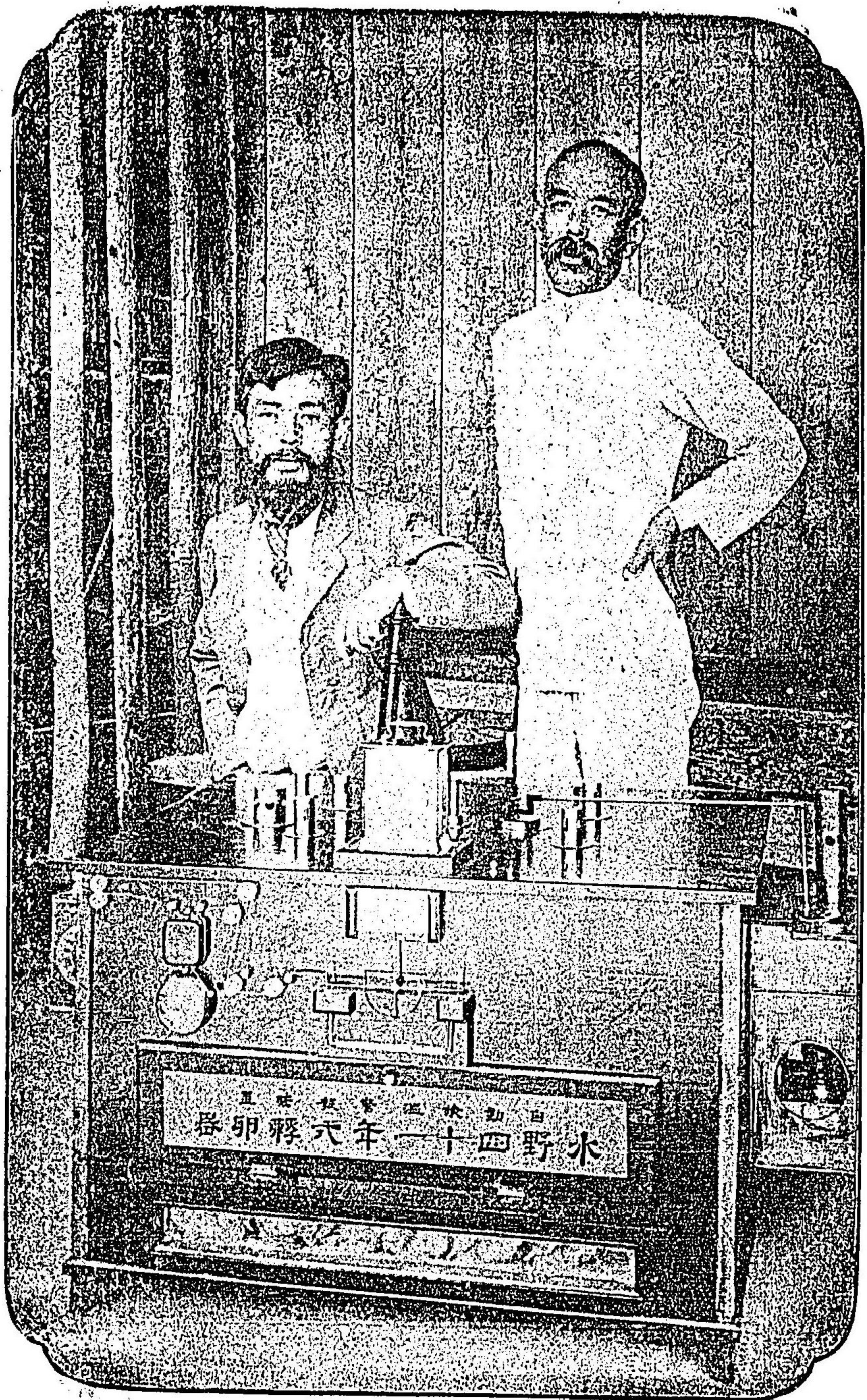


Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in vertical columns. The text is written from right to left. The characters are highly stylized and difficult to read precisely, but they appear to be a mix of kanji and hiragana. The columns are roughly as follows:
Column 1 (rightmost): 中
Column 2: 中
Column 3: 中
Column 4: 中
Column 5: 中
Column 6: 中
Column 7: 中
Column 8: 中
Column 9: 中
Column 10: 中

中



表圖ハ縣下京都郡行橋町柏木二郎熊氏飼養ニ係ル所ノミノルカ種ニ
シテ第十三回九州沖繩八縣聯合共進會ニ於テ出品鶏中最高ノ得賞鶏
ナリ依テ讀者ノ參考ニ資センガ爲メ乞フテ茲ニ掲グルトセリ
起稿ニ當リ氏ガ飼鶏ニ於ケル來歴ヲ漏サレシトテ乞ヒシモ謙遜敢テ
語ラレズ爲ニ知ルニ由ナシ故ニ深ク茲ニ贅セズ只其事ヲ成ス流行ヲ
追ハズ浮説ニ雷同セズ小事ト雖モ荷モセズ一タビ之ヲ爲ス亦敢テ更
ユルナシ其人格其嚴正其高潔其公家洵ニ得易カラザルノ士タリ
氏ハ山口ノ人井上候爵ノ甥人テ柏木家ヲ嗣グ其富其業ノ如キモ亦記
スルノ要ナカラシ家禽ノ如キハ自家用トシテ數十羽ヲ飼養セラレ出
品ニ際スルモ工ヲ加ヘズ而モ加工麗飾セル池鶏ヲ凌駕セシハ亦我鶏
界ノ一美談トシテ誇ルニ足ラン乎記シテ記テ説明ニ代ユ



表圖ハ縣下田川郡上野村赤池炭坑々長福嶋隆氏經營ニ係ル所ノ家禽舎ノ一部ナリ前
面ナルハ雛舎ニシテ次ナルハ種禽舎トス

全氏ガ茲ニ家禽飼養ヲ經營スルニ至リシハ僻陬ノ地ニシテ置期鮮魚ヲ得ル能ハズ老
幼病者等ノ滋養ハ一ニ卵肉ニ仰グノ外ナシ而モ地方ノ供給之ニ作ハズ輸入卵ハ往々
腐敗ニ傾キテ滋食ニ堪ヘザルモノ多シ斯ノ如クニシテ役員以下勞働者ニ至ル坑内三
千ノ衆健康ノ保持ヲ信賴スル所ナクンバ人道ニ戾リ事業ノ有終ヲ期スベキノ途ニ非
ラザルヲ歎ジ地ヲ坑長舎ノ側ニトシ飼鶏ヲ創始シ經營殆ンド十年途ニ能ク素志ヲ貫
キ目的ノ彼岸ニ達スルヲ得今ヤ地積二百餘坪ヲ拓キ大小四棟ノ鶏舎ヲ建テ年ト共ニ
其種ヲ輸入シ年産額卵四萬個鶏四百羽ヲ算スルニ至リ以テ一ハ部トニ惠ミテ慰安
ニ資シ他ハ種卵、雛兒ヲ配布シテ副業ノ獎勵ニ盡ツル氏ガ經營ノ如キハ洵ニ能ク範
ヲ他ニ示スニ足ルモノアルヲ信ズ依テ乞フテ本書ニ挿入スルコト、セリ

回ニ現在飼養セラル、種類ハ左ノ十七種ニ及ベリト

淡色及暗色アラマ、 黒色オービントン、 銀色及白色ワイアンドット、

横斑及白色ブリマウスロツク、 白色及褐色並蓋被冠白色レングホーン、

銀色條斑及銀色點斑ハンボルク、 黒色及白色ミノルカ、 スバニツシユ、

以上各種ノ交雜種 眞 鴨

表圖ハ人工孵卵器ニシテ農商務省農務局畜産課長西川勝藏氏ノ公托ニヨリ著者ガ約一ヶ年ヲ費シテ考案セシ所ノモノトス名ケテ自動警報装置水野四十一年式孵卵器ト稱ス不幸主務省へ輸送ノ途紛失シ半歳ノ後漸ク之ヲ發見セシモ己ニ大破ニ及ビ今ハ即チ無シ唯一葉ノ寫眞我手ニ存ズルノミ紀念的本書ノ發刊ニ當リテ此紀念スベキ一葉ノ寫眞ヲ之ニ寫出スルコト、セリ而シテ著者ガ背后ニ立テルハ本器ノ考案ニ多大ノ同情ヲ以テ之ガ成功ヲ賛ケラレタル福岡縣一等測候所長技師淺野修氏トス

福岡縣立農事試驗場ニ於テ現在使用スル所ノモノハ本器ニ少シク改良ヲ加ヘタルモノ之ヲ四十二年式ト命セリ依テ茲ニ附記ス

副業の養雞序

世の農に従事するもの副業と主業とを混同し或は主業を副とし副業を主として經營するものあり這は素より地勢風土の然らしむる處にして絶對に非認す可き事柄にあらず然し自然の狀態が主業副業劃然として其限界を有するに拘はらず往々偏倚の方法を執るか爲め其勞力の均配を失ひ資本の融通を缺き失敗の歴史を遺すもの尠からざるは極めて遺憾とする所にして養雞業の如き儘に其例の一たるを失はず

頃日知人水野久一郎君副業の養雞なる一書を著はし主副の關係を隱健に記述し弘く同好の末に頒たんとす君は本縣農事試驗場に在ること五ヶ

年専ら養雞の主任として幾多の試験を行ひ苟も其成蹟の憑る可きものは執て以て世に公にせりと雖も未だ其全豹を盡したりと云ふ可からず仍て君か多年蓄積し來りたる學說と豊富なる試験材料を以て其餘蘊を盡せり世の副業研究に意を傾くるもの漸く多きを加ふるの今日此良著を見る眞に養雞界一種の光明を得たるものと謂つ可し

明治四十三年八月 於蠅屋

南波菰川誌

自序

余職ヲ本縣農事試験場ニ奉ジテヨリ已ニ五歳ニ跨リ知親日ニ加ハリ今ヤ郷土ニ在ルノ感アリ翻テ過去五年間ノ事蹟ヲ考フレバ轉々慚愧ニ堪ヘザルナリ而モ此間幸ニ大過ナク今日アルヲ得タルハ内場員諸士ノ賛ヲ得外縣民諸君ノ同情アルニアラザレバ能ハズ何レノ日カ之ニ報ユルコトヲ得ンヤ而リ然シテ今ヤ身邊ノ事情ハ諸士ノ知遇ニ背キ熱誠ナル同情ノ万分ニ報ヒズシテ近ク退身郷土ニ復ラザルヲ得ザルニ至ル洵ニ惜別ノ情ニ堪ヘザナリ余嘗テ談笑ノ間嶺多田船津ノ三郡農會幹事ニ簡易ナル家禽書ヲ著作スベキ誘導ヲ受ケタルコトアリ然レモ時未ダ來ラズ期尙ホ

熟セズ遷延歲月ヲ經過シテ今日ニ及ベリ今ヤ近
 ク本縣ヲ退カントス若今ニシテ逡巡センカ終ニ
 知遇ニ答フルノ期無キニ畢ラン故ニ淺學不才ヲ
 省ミズ在職五年ノ紀念トシ且ツハ近ク退身スベ
 キ紀念トヲ兼子聊カ平素知遇ノ点滴ニ報ヒント
 欲シ茲ニ稿ヲ起スニ至リ又其記スル所概子沈腐
 ニ屬シ文章亦更ニ拙ナク殆ンド見ルベキナシト
 雖モ唯終始共ニ諸士ノ同情ニ信賴スルアルノミ
 若之ニヨリテ些ノ資スル者アリトセバ著者ガ幸
 之ニ過ギズ脚力不交ヲ章シテ本書發行ノ辭トス

明治四十三年八月

著者誌

副業ノ養鶏

目次

家禽ト野鳥トノ區別	一
鶏ノ祖先	二
鶏ノ種類並ニ各種ノ得失	二
副業的養鶏ニハ如何ナル種類ヲ撰定ス可キ乎	三
副業養鶏ノ諸設備	四
農家ノ副業トシテ適當ナル羽數	七
家禽撰擇ノ必要	八
遺傳性ニ對スル注意	九
配偶ト年齢	一〇
配偶法	二〇
種禽撰擇上ノ條項	二六
孵化時期ト孵化法並ニ檢卵	二九
育雛法	三六

親鶏飼養法 四〇
 放飼ト柵飼 四一
 果樹園藝ト養鶏 四四
 如何ニシテ多クノ飼料ヲ得ル乎 四五
 如何ニシテ多産ナラシムル乎 四七
 鶏卵貯藏法 四八
 鶏糞ノ價值並ニ使用法 四九
 疾病及害虫 五二
 閹鶏ノ利益並ニ去勢術 五九
 産業組合ノ必要並ニ定款及細則 六二
 附 録 八〇
 福岡縣家禽業ノ消長 八〇

副業ノ養鶏

元 福岡縣立農事試験場 養鶏主任 技手 水野久一 著

家禽ト野鳥トノ區別

家禽ト謂ヒ野鳥ト稱スルモ是皆鳥類ニシテ敢テ異ナル所ナシ然レドモ之ヲ區別スルハ各鳥類ノ性質ヲ異ニセルヨリ吾人ノ名命セシニ外ナラス然レバ如何ルモノヲ家禽トシ如何ナルモノヲ野鳥ト稱スルカト云フニ之ヲ區別スル定義ハ鳥類中壓制又ハ強抑ヲ受ケズシテ能ク人ニ馴レ經濟上ノ用途ヲ有スル鳥類ヲ總稱シテ家禽ト名命セリ而シテ現時家禽ト稱スルモノヲ屬別セバ(1)鶏(2)吐綬鶏(3)鶩(4)鵝(5)鳩(鳩ハ野鳥ニ屬ス)及ビ(6)珠鶏等トス然レトモ珠鶏ハ他ノ家禽ニ比シテ野鳥ノ性質ヲ帶ブル點多シ故ニ或ハ準家禽トモ稱スルコトアリ彼ノ孔雀ノ如キ鴛鴦ノ如キハ卵ヨリ孵化セツメテ愛育ストモ一度柵外ニ出ス片ハ任意飛趨シ去リテ再ヒ歸リ來ラズ是レ禽ト鳥トノ

區別セラル、所ナリ

鶏ノ祖先

今茲ニ説カントスル所ハ家禽中ノ鶏族ノミニ止ム故ニ先ツ鶏ノ今日アル由來ヲ述ベテ各論ニ入ラントス
鶏ハ素ト印度、馬來、暹羅等熱帶地ノ野鶏ノ進化シタルモノニシテ「ガurlラヌバンキ」ニヨリテ今日ノ種々ノ鶏種ヲ生セシモノナリ

鶏ノ種類並ニ各種ノ得失

前項述ブル所ノ如クシテ種々ナル体形各様ノ羽毛異ナル鶏ヲ出シ各鶏ノ交雜ニヨリテ今日ノ如ク殆ンド貳百余種ニ及ビシナリ而シテ今日己ニ羽色性質等ノ固定シタル種類ヲ地域ニヨリ分類セバ大畧左ノ如シ

日本種

地 鶏
長 尾 鶏

倭 鶏

名古屋コーチン

鳥 骨 鶏

箕 曳

地 鶏

亞細亞種

コーチン

ブラマ

ラングシヤン

マレ

印度ゲーム

反 羽 鶏

地中海沿岸種

スバニツシユ

ミノルカ

レグホーン

アングルシヤン
アムコーナ

英國種

ドーキング

ハンバーク

レッドキヤップ

ホーピントン

スコツチグレイ

英國ゲーム

佛國種

カールダン

ラフレツシユ

クレブクール

フアボロール

ラマンス

コールテバツテ

和蘭種

ポールランド

米國種

ブリマウスロツク

ワイアンドット

ジャウア

ロードアイランドレッド

ドニニツク

土耳其種

サルタン

露國種

バヴロフ

以上ノ外尙無所屬ノモノアリ各種ノ「バンドム」アリ「サルモンバイル」「オルルデル
ビー」雌尾狀等數種ノ圖鶏種アリ然レトモ茲ニ農家ノ副業トシテ生産ヲ主トセルガ
故ニ之ヲ省ク而シテ各種ノ得失ニ就テハ各人ノ目的習慣、氣候或ハ又策略上種々ノ

説ヲ爲スト雖モ公平ナル眼ヲ以テ一般ヨリ觀察セバ世人ノ云爲スルガ如ク著シキ差アルモノニアラス又絶對ニ優良ナル種類無キト同時ニ赤絶對ニ不良ナル種類ナシ然レドモ我國ノ氣候、及一般農家ノ事情ニ適セザルモノハ他ニ探ル可キ点アリト雖モ之ヲ避ルノ優レルニ若カズ仮令ヘバ白面「スバニツシユ」種ハ地中海沿岸種ノ祖先ニシテ顔面ノ白色ナルハ他種ニ見ザル珍奇ノ点ナリト雖モ血統古ク正シキ丈ケ休質虛弱ナリ故ニ同一目的ニアリテハ寧ロ「ミノルカ」種ヲ撰ムヲ可トナスガ如ク或ハ同一種族中ニアリテモ「バフレグホーン」種ノ大卵ハ褐色「レグホーン」種ノ多産ニ及バザルガ如シ依テ茲ニハ我國在來種及ビ一般普及セル種類ノ顯著ナル者ノミヲ撰ンデ其得失ヲ説ク可シ

地 鶏

本種ハ日本固有ノ種類ニシテ体形重量共ニ褐色「レグホーン」種ニ似テ冠稍小ニ尾羽角度底ク耳朶ハ赤色ナリ肉味頗ル佳良ニシテ強壯ナル事他種ニ比ス可キナシ然レドモ久敷キ幾千年ノ間生産的ニ改良セザリシ爲メ体小且ツ産卵多カラザルハ甚ダ遺憾トス然レトモ今後他種ト交雜セシメ美味ト強健ナル特性ヲ保持シテ休大ト産卵トニ於テ改良淘汰セバ蓋シ無上ノ實用鶏タラン

地 スリ

我國西南部ニ多ク産シ地鶏ニ似テ稍長ク且大ナリ又本種ノ特長トスル所ハ其脚ノ著シク短キニアリ此種ハ晩生ナレドモ産卵比較的多ク歐米改良種中ノ兼用種ニ劣ラズ肉量非常ニ多クシテ能ク肥滿セルモノニ至リテハ生体量百匁ニ對シ七拾匁以上ノ良肉ヲ得体量ノ重キハ雄壹貫貳百匁ヲ超ヘ雌壹貫目ニ達スルモノアリ我國ノ家禽界ハ今ヤ洋種ニ魅魅セラレ内ニ此等良種アルヲ忘ル此種ノ未ダ絶ヘザルニ先ダチ我飼鶏界ニ一顧ヲ促スルモ敢テ徒勞ニアラザル可シ

名古屋コーチン

本種ハ愛知縣ニ於テ改良セラレタルモノニシテ「コーチン」雜種ナリ初メハ九斤ト稱シ次ニ達磨ト謂ヒ其羽色ノ黄色ナルモノ世人ノ嗜好ニ投ズルニ至リ他色ヲ退ケテ専ラ黄色ニ改良セラレ爲ニ「ウスケ」(淡色ノ羽毛ノ義)ト呼フニ至リ後各地ニ普及シテ「名古屋コーチン」種ト命名セラル、ニ至ル中形ノ單冠ヲ有シ体量六百匁乃至八九百匁ヲ普通トス性温順ニシテ孵化育雛ニ巧ナリ雛モ赤強壯ニシテ能ク成長シ群居ニ耐ヘ粗食ニ甘ズ故ニ專業家ハ多ク此種又ハ此種ノ雜種ヲ飼養ス然レドモ卵肉

共ニ其味不良ナルハ措ムベキ所ナリ

烏骨鶏

本種ハ毛冠ヲ有シ羽毛繊細ニシテ獸毛ノ如ク五乃至六趾ヲ有シ皮膚及ビ肉骨共ニ暗帶青紫黑色ヲ呈ス体軀小ニシテ頗ル温良育雛ノ巧妙ナル此種ノ右ニ出ルモノナシ肉味不良産卵亦甚タ少ナク實用鶏トシテハ殆ント價値ナシト雖モ肺病及中風ニ寄効アリトテ其名高シ

コーチン

此種ハ其羽毛ニヨリ白色、黒色、バフ、バートリツチ、等ノ名ヲ冠ス中形ノ單冠ヲ有シ体軀重大性温順ナリ肉用種トシテ名アリ我國一般ニ普及セルハ「バフ」色ノモノ第一位ニ居ル晩熟ニシテ産卵比較的良好ナリ飼飼ニ適ス

ブラマ

本種ハ淡、暗、ノ二羽色アリ淡色モノヲ元種トス暗色種ハ其体形性質等「コーチン」ニ近似セル所アリ以テ「コーチン」ノ血液ヲ混ゼシヲ知ルニ足ラン産卵前種ニ及バズト

雖モ体量前種ニ優ル肉味亦佳良ナリ姿勢尊大以テ愛スベシ

ラングシヤン

黒色ノモノ「コーチン」種ニ似テ脚羽少ナシ強健ニシテ多産ナリ

ミノルカ

此種ハ「スパニツシユ」ヨリ出ズ故ニ赤面「スパニツシユ」ノ稱アリ六列ノ大單冠ヲ有シ耳朶白色ナリ体軀中等性活潑ニシテ多産ナリ卵用種中屈指ノ良種ナリ羽色ニ白、黒、ノ二種アリ黒色ノモノヲ元種トテ生産力赤白色種ニ優ル

レグホーン

冠ニ單冠、蓑薇冠ノ二様アリ羽色ニ白、褐、バフ、黒ノ數種アリバフ色ノモノハ卵大ナリト雖モ多産ナラズ体軀小輕性頗ル敏捷ナリ卵量ミノルカ種ニ及バズト雖モ「コーチン」種ニ比スベク産卵ノ豊多ナル専用種中ニ冠タリ

アングルシヤン

本種ハ灰色ヲ呈シ各羽ノ縁ニ殆ント黒色ニ近キ濃藍灰色ノ覆輪アル者ヲ可トス鶏

類中最大ノ卵ヲ産ス其大ナルモノハ廿四勿ニ達スル事アリ然レトモ雜誌其他ニ於テ
稱賛スル程ノ産卵力ナシ地中海沿岸種族中ニアリテハ産卵力最下位ニアランカ

アンコーナ

「レグホーン」種ノ交雜ヨリ成レルモノニシテ羽色ノ黑白、駁斑ナルノ外取テ「レグホ
ーン」種ト異ナル点殆ントナシ産卵又豊多ナリ
以上「ミノルガ」種以下ハ何レモ卵用種ニシテ脚毛ヲ有セズ脚袖ノ翼力強シ故ニ放飼
ニ適セルモ幼時ヨリ慣レシムレバ亦能ク柵飼ニ適ス卵數何レモ白色ナリ

ドーキング、レツドキヤップ

兩種共肉味ノ佳良ナルト肉量多キ二点ニ於テ洋種中ニ冠タリ然レドモ性虛弱ニシテ
副業ニ適セズ我國ニ於テ此種ノ特長ヲ愛セバ寧ロ「地スリ」鶏ヲ飼養スルノ便レルニ
若カズ

ハンバーク

此種又羽色ニ數種アリ然レドモ体小ニシテ「レグホーン」種ニ及ハズ放飼ノ場合ニ

アリテハ産卵頗ル豊多ナレドモ柵飼トナス時ハ著シク産卵減少ス育雛困難ニシテ「
レグホーン」種ノ安全ナルニ若カズ

オーピントン

羽色ニ黒、白「バフ」ノ三様アリ黒色最モ古シ脚羽「コーチン」ニ比シ少ナク其他ノ点
ハ「コーチン」種ニ似タリ性强健ニシテ味佳良ナリ産卵又「コーチン」種ニ劣ラス

ウータン

本種ハ黒、白、不規則ノ斑ニシテ其毛冠ト菊葉狀ノ肉冠並ニ五趾ヲ有スルハ他一般ノ
鶏ト大ニ其形態ヲ異ニセル所ナリ性頗ル温良ニシテ柵飼ニ適ス肉味亦佳良ニシテ産
卵豊多ナリ殊ニ卵黄ノ大且ツ濃黄ナルハ此種ノ特色ナリ然レ共初産ノ時任々輸卵管
脱出シ爲ニ斃死スル事アルハ本種ノ欠点トス故ニ他種ト交雜セシメテ實用鶏ヲ作ル
ニヨシ

ポーランド

本種ハ大ナル毛冠ヲ有シ爲ニ視線ヲ妨グルニ至ル性温順ナレドモ怯懦、育雛亦容易

ナラズ然レドモ能ク産卵ス舊時蘭鷄ト稱セシハ本種中白毛冠黑色「ポールランド」種ノ事ニシテ和蘭國ノ幕府時代長崎ト赤通セン頃己ニ我國ニ渡來セリ其他金色、銀色等アムドモ白毛冠黑色種ニ及バザルモノ、如シ

プリマウスロツク

米國改良種中第一位ヲ占ムバハ色ノ者アリト雖モ白色、連、ノ二種尤モ普及シ亦實用ニ適ス性温順ニシテ柵飼ニ適ス体形「コーナン」種ニ似タリト雖脚毛ナシ體量殆ンド肉用種ト比肩スベク産卵モ亦卵用種ニ垂ントシ肉味優良ナリ蓋シ兼用種中ニ冠タリ口惜ムヲクハ離ハ發育稍不良ナルニアリ故ニ名古屋「コーチン」ノ如ク强健ナル種類ニヨリテ育雛ノ方法ヲ習得シ技成テ然ル後本種ト更レハ最安全ナル策ナラン乎

ワイアンドット、シヤバー

此二種中前者ハ白色、バブ金、銀色、ノ四羽色ナリ後者ハ黑色、白色、班紋ノ三羽色ヲ有ス兩者共ニ「ブリアウスロツク」種ト其効用畧相似タリ故ニ説明ヲ省略ス

ローリアニランロツト

本種ハ米國「ローリアニランド」ノ赤色ノ鷄ト云フ義ナリ羽色「名古屋コーチン」ニ比シテ稍赤色ヲ帯ビ外觀美ナラズ本種作出ノ内容ハ我「名古屋コーチン」種ニ於ケルガ如シ其効用体形性質亦相似タリ

副業的養鷄ニハ如何ナル種類ヲ撰定スベキ乎

副業的養鷄ニ適當ナル種類トシテ問ハバ世人ノ多クハ異口同音ニ强健ニシテ温順ナル種類ヲ撰ベト答フルモノ、如シ然レモ余ニ此一語ヲ以テ足レリト信ズル能ハス若シ世ニ强健、温順、ト多産豊肉ノ種類アリセバ其以外ノ種類ハ愛玩ニアラザレバ之ヲ飼養シ之ヲ繁殖スルモノナキニ至ラン然ルニ事實ハ之ニ反シ年ト共ニ新種類ヲ出新系統テ出ス蓋シ此現象ハ未ダ完全理想的ノモノナク隨テ世人ハ理想ニ向テ改良ヲ企圖シツ、アルコトヲ語ルノ証ナラン然ラバ何種ヲ以テ適當トナスカ余ハ愛玩種ヲ除クノ外殆ンド適セザルモノナシト答ヘンノミ何ナレバ其各人ニ於ケル事情ノ異ナルニ從テ種類ノ撰ヲ異ニスベキ必要アレバナリ是ヲ具體的ニ細説セバ郡市ニ近ク比較的飼鷄ニ供スベキ地積ノ狭小ニシテ絶對ニ放飼スベカラザル所ニアリテハ仮令幾分ハ産卵少ナク又ハ卵肉ノ味美ナラザルモ能ク群居ニ耐ヘ温良ニシテ食ヲ撰マザル「名古屋コーチン」ノ如キ或ハ「ローリアニランドレット」ノ如キ種類ヲ撰ムヲ

可トス又育雛ノ術ニ於テ自信アルモノハ多少育雛ニ手ヲ要スルモ産卵、肉味、其ニ前者ニ優レル「ブリマウスロック」「ソイアンドット」乃至体重大ニシテ卵質佳良ナル「オービントン」「コーチン」「ラングシヤン」「ジャバーバ」「ブラマ」等ヲ撰ムベシ若人家ノ山間ニ点々散在シ極目原野ニ非ザルモ概テ桑園、果樹等ニシテ任意ニ放飼シ得ベキ所ニアリテハ輕快敏捷能ク狐獺鷹、鳶、ノ來襲ヲ避ケ得ベキ「レグホーン」「ミノルカ」ノ種類最モ適シ更ニヨリ以上貴漠ノ地ニシテ野鳥的放飼養ニハ「ハンバーク」種ノ多産ナルニ優レルナシ若又庭園内ニ放飼センニハ育雛稍困難ナルモ温順ニシテ多産加フルニ搔乱ノ害少ナキ「ポーランド」種コソ恰適ノ種類ナラン宜シク各自々家ノ事情ニ鏡ミテ前項述フル所ノ各種ノ特性ニ就而具種ヲ撰フ可キナリ

副業養鶏ノ諸設備

由來副業ナルモノ、性質ハ廢物ノ利用乃至農間餘暇ノ活用ヲ主眼トシ之ニ要スル資金ノ如キモ又僅少ニシテ比較的有利ノ方法タラサル可カラズ然レドモ鶏ヲ飼養スルニ適當ナル設備ト作業上便利ナル方法ヲ具備スルニ非ザレバ有利ノ業モ爲ニ不利ニ終ルナキヲ保ヤズ故ニ貳拾羽以內ノ飼鶏ニ適當ナル諸設備ヲ茲ニ錄シテ參考ニ資ス數ニヨリテ面積ヲ増減シ或ハ其他ノ事情ニヨリテ取捨スルハ各自ノ任意ノミ

拾五羽乃至貳拾羽ノ鶏ヲ柵飼スルハ壹坪半以上ノ庇ヲ附セル與行四尺乃至二間々口壹間乃至九尺ノ鶏舎ヲ要ス換言セバ壹坪前後ノ面積アル舎ヲ要スベシ若シ納屋收納舎等ノ一部ヲ割キテ舎ニ當ツル場合ハ其部分ヲ板又ハ壁等ニテ區分セザレバ半坪ノ面積ニテ足レテ判然區分セル場合ニハ夏期ニアリテハ鬱氣蒸熱ノ爲メニ健康ヲ害フ事アルベシ故ニ小面積ニ區畫スル場合ニハ簀ノ類ヲ以テスルヲ得棄トス而シテ柵飼ノ場合ニハ少ナクモ三坪ノ運動場ヲ附セザル可カラス鶏舎成ラバ次ハ沙浴場ナリ沙浴ハ鶏ニ最モ必要ノ事項ノ一ナリトス板令雨天ノ時モ自由ニ沙浴シ得ラル、椽庇下ニ方二尺内外深サ七八寸乃至一尺ノ穴ヲ設ケ其内ニ沙質土ニ少量ノ石灰又ハ硫黃末ヲ混シ置キ夏期ハ半ヶ月冬期ハ壹ヶ月ニ一回位沙浴ノ半分宛ヲ取替フベシ鶏ハ是ニヨリテ羽虫ヲ除去シ又憶々トシテ遊バン

若放飼ノ場合ニハ舎ノ面積ハ同一ナルモ殊更ニ庇及浴沙場ヲ設クルノ要ナシ然レモ驟雨降雪等ヲ避ケ得ベキ設備トシテ少ナクモ方向異ナレル三尺四方以上ヲ有スル避隱ノ場所二三ヶ所ヲ適宜ノ場所ニ設クベシ其構造ハ四柱ヲ建テ屋根ノ高サハ三四尺位ニテ足ル而シテ風當等ヲ考ヘ一乃至二方ヲ葉、蕙ノ類ヲ以テ壁ヲ造ルベシ屋根モ又杉皮ノ類ニテ足ル

器具トシテハ二個ノ陶製飲水器及ビ貳參個ノ食器ト糞掃除ノ器具アレバ足ルベシ

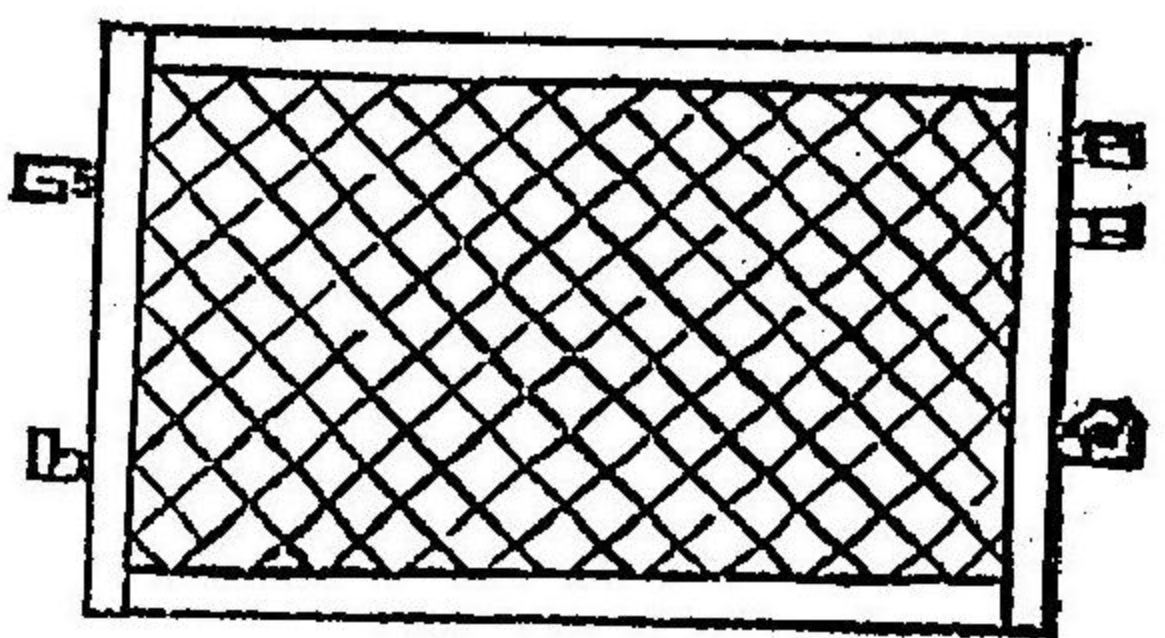
親鶏ノ設備已ニ成ラバ次ハ育雛用ノ器具トス副業的養鶏ニハ孵卵器ヲ用フルモノ稀ニシテ多クハ母鶏孵化ニ寄ルガ故ニ茲ニハ母鶏孵化及母鶏育雛用器具ノミノ説明ニ止メン卵ヲ抱カシムルニハ經壹尺貳參寸高サ約八九寸ノ六ツ目籠ヲ最良トス然レドモ石油空箱又ハ小桶、樽ノ類ヲ用ユルモ不可ナシ

育雛ニハ普通伏リテ用フレトモ雛ノ出シ入レノ際甚ダ不便ナリ故ニ籠ヲ用フルニハ必ズ上部中央ニ經五寸位ノ穴ヲ設ク蓋ヲ掩フベクスベシ然ラサレバ出入ノ際雛ハ四方ニ散逃シ之ヲ補ヘントシテ東西ニ追ヒ廻リ住々溝、水溜、等へ墜落セシムル事アリ仮令然ラサルモ雛ヲシテ人ヲ怖レ且ツ疲勞セシメ以テ完全ナル成育ヲ得ザラシムル事アリ此等ノ事ハ育雛上大ニ注意スベキ要件ナリトス

余ハ此ノ籠伏代用品ヲ考案シ己ニ日本家禽全書編纂ノ當時全書中ニモ之ガ圖ヲ示シ今ヤ專業ト副業トヲ問ハズ之ヲ使用スルモノ日ニ多キヲ加ヘ來レバ茲ニモ之ガ圖示説明スベシ

左圖ハ雛框ニシテ高サ一尺五寸乃至一尺八寸巾二尺五寸ノ木框ニテ之ニ金網ヲ張り右方ハ圖ノ如ク上部ニ二個下部ニ一個ノ蓋、左方ニハ上部ニ壹個ノ蓋ト下方ニ一個ノ臂金ヲ取附四枚ヲ連圍シテ二尺五寸四方ノ小柵トナル此雛框ハ不用ノ時ハ取外シ狭キ場所エ片附得ラレ雛ノ多キ時ハ六枚ヲ取着二尺五寸巾五尺長サノ柵トモナル而

シテ上ニ竹又ハ簀ヲ以テ蓋ヲ作ル若人工育雛ノ場合ニハ石油明箱參個ト竹又ハ針金



ノ蓋壹枚ニテ能ク貳拾羽未滿ノ幼雛飼養ニ足ルナリ石油箱ハ何レモ横板ノ一方ヲ除去シ蓋ハ釘附シ一個ハ冬期及初春ニ於ケル火鉢入トシ其上へ雛ヲ入ル可キ箱ヲ重ネ壹個ハ箱掃除ノ際取替用トス使用法ニ至リテハ項ヲ追而説明スベシ

要スルニ以上ノ設備ヲ完全ニスルモノ之ニ對スル金額ハ貳拾圓内外ニテ足ルベシ若納屋等ノ一隅ヲ割キ或ハ居宅ノ一部ニ庇ヲ出シテ鶏舎トナサバ半額ノ費用ヲ以テ足ルベシ

副業養鶏ノ現時ノ状態ヲ見ルニ多クハ屋内ノ一隅ニ釣時ナルモノヲ設ケ或ハ床下ニ飼養ス是等ハ皆費用節約ノ点ヨリ打算セシ設備ナランモ共ニ掃除ニ困難ナルト不潔ノ目ニ觸レ難キトニヨリ往々放任セラレ甚ダシキハ命令ヲ受ケテ施行スル年二回ノ大掃除ノ際ニノミ掃除スルモノアラスノ如キハ鶏ノ健康ヲ害シ産卵ノ減少ヲ來スノミニ止マラス時ニ或ハ死ニ至ラシメ又糞蟲ハ床上ニ迄蔓延シ吾人ノ安眠ヲモ妨クルニ至ル

農家ノ副業トシテ適當ナル羽數

余ガ所謂適當ナル羽數ト云フハ農業ノ種類及耕地ノ面積等ヨリ打算セシ適數トス或ル特別ナル事情ヲ有スルモノハ例外トシテ一毛作水田壹町歩ヲ作ルモノニアリテハ五羽二毛作ノ田面ニアリテハ一町歩ニテ八羽果樹園ニ放飼スル者ハ夕方一回ノ投餌ヲ爲サバ壹反歩ニテ夏期ハ拾羽冬期ハ貳羽葉菜類ヲ栽培スベキ畑地壹反歩ヨリ生ズル無價飼料ハ年内ヲ平均シテ三乃至五羽ヲ飼養シ得可シ右ノ羽數ハ只其概數ニ過ギザレバ各自ノ注意如何ニヨリテ多少ノ増減アルハ免ル可カラズ大畧右ノ羽數以上ヲ飼養センハ欲セバ勢ヒ糝、糟粕、蔬菜ノ屑等自家生産ノ用品以外ニ雜穀類ヲ飼料ニ供ス可キ覺悟ナカル可カラズ蓋シ我國農家ノ現狀ヨリ打算セバ平均拾羽ノ鶏ヲ飼養スルニハ糝、糟、以外ニ敢テ使用ス可キ必要ヲ認メザルモノノ如シ

種禽撰擇ノ必要

農作物ニ於ケル種子撰擇ノ必要ナル如ク家禽ニ於テモ又種禽ヲ撰定スベキ必要アリ然ラバ如何ナル者ヲ撰定スベキ乎左ニ其條項ヲ列舉セン

- (一) 體質強健ナルモノ
- (二) 産卵豊多ナルモノ
- (三) 体量重大ナルモノ

(四) 外觀美ナルモノ

以上ノ四項ハ其大要ナリトス而シテ余ガ茲ニ謂ハント欲スル所ノモノハ「ハンバーグ」種ト「名古屋コーテン」種トニ於テ體質ノ健否ヲ比較シ或ハ「レグホーン」種ト「ブラマ」種ノ産卵ノ可否ヲ論ズルガ如キニハ非ズ何トナレバ各種共長所ト短所トヲ有シ隨而性質目的ヲ異ニセリ然ルニ甲ノ特長ト乙ノ短所トヲ比較シテ之ヲ論ジ以テ優劣ヲ判セント欲スルモ得可カラザレバナリ余ガ強健ト云ヒ多産ト云ヒ將又美觀ト稱スル所ノモノハ同一種類中ニ於テ可成強健ナルヲ撰ビ可成多産ナルヲ撰ビ可成外觀美ナルヲ探ラント欲スルニアリ「コーチン」種ト雖モ多産ナルモノハ普通ノ「レグホーン」「ミノルカ」等ニ優リ「ミノルカ」「アングル」等ト雖モ肥大ナルモノハ不良ナル「ブラマ」「コーチン」等ヲ凌駕スルモノアレバ各自ノ飼養セント欲スル種類中ニ於テ前條項ニ適セルモノヲ撰拔シ且ツ其長所ヲ子孫ニ傳ヘシメントヲ忘ル可カラズ以下項ヲ更テ細說セン

遺傳性ニ對スル注意

遺傳トハ性質(良性悪性共)形狀、羽色、等ヲ其子孫ニ傳フルノ義ニシテ鶏ニ於テモ又然リ故ニ形態ノ不良ナルモノ粗暴ナルモノ怯懦ナルモノ雜毛アルモノ寡産ナルモノ

小卵ナルモノ雄卵ヲ多ク産スル者及肺、卵秘、脚弱、等ノ諸症ハ何レモ形状、性質、病症、等ヲ子孫ニ遺傳セシム然レモ羽毛ノ艶麗ナル形態ノ整備セル或ハ温良ナル多産ナル大卵ナル雌卵ヲ多ク産スル筋骨ノ強大等善良ノ点モ亦子孫ニ遺傳ス而モ不良惡性ノ遺傳ノ顯著ナルニ比シ良性良質ノ遺傳力ノ甚ダ微弱ナルガ故ニ僅少ノ數ナリト雖モ其子孫ヲ繁殖セント欲スル場合ニハ決シテ忽諸ニ附スベキニアラズ宜シク前項ニ述ブル所ノ條項ニ注意シ能ク彼ガ微弱ナル遺傳モ之ヲ放任スル事ナク大卵、多産、體大、整備、強健、等ノ理想ニ近キ者ヲ撰ミ遺傳力ノ旺盛ナル小卵、寡産、乃至病症、惡癖等ヲ其子孫ニ遺傳セシムベカラズ殊ニ親子兄弟間ノ繁殖ニ於ケル是等ノ遺傳力ハ殆ンド倍加ノ力ヲ以テ其惡性惡質ヲ増大ナラシムルモノナレバ若シ等閑ニ附センカ強健多産ノ良種モ幾年ノ後ニ至ラバ亦當時ノ儼無キニ至ルベシ現時農家ニ飼養スル所ノモノ殆ンド此歎アラザルハナシ雖ノ虛弱ヲ患ヒ産卵ノ不良ヲ罵リ體軀ノ矮小ヲ託ツノ聲到ル所ニ發ス蓋シ遺傳ニ對スル注意ヲ怠リシ結果ニ外ナラザルナリ而シテ終リニ一言スベキハ形状ハ雄鶏ニ似性質ハ雌鶏ニ近似スルモノ十中ノ七八ヲ占ムルモノナレバ種禽ノ撰擇ニ就テモ此点ニ留意スベキナリ

配偶ト年齢

年齢ノ配偶ニ及ボス結果モ亦侮ル可カラザルモノアリ今配偶雌數ト雄鶏有効年間ヲ示セバ概ネ左ノ如シ (但孵化後滿一ケ年ノ雄鶏ヲ配スル場合)

- 一 壹雄ニ壹雌ヲ配スルモノ 五年間交接受精スルモノトセバ
- 一 壹雄ニ參雌ヲ配スルモノ 四ケ年
- 一 壹雄ニ五雌ヲ配スルモノ 三ケ年
- 一 壹雄ニ七雌ヲ配スルモノ 二ケ年
- 一 壹雄ニ拾雌ヲ配スルモノ 壹ケ年半
- 一 壹雄ニ拾五雌ヲ配スルモノ 壹ケ年
- 一 壹雄ニ貳拾雌ヲ配スルモノ 半ケ年

次ニ老齡ノ者ニ若雌ヲ配シタル場合ハ多クハ体小ニシテ虛弱ニ陥ルベシ故ニ半年乃至壹ケ年孵化ノ遅レタル雄鶏ヲ用ニルヲ可トス然レモ場合ニヨリテハ壹年乃至二年雄ヲ以テ四五年ノ老雌ニ配スルモ雄鶏ニシテ壯齡ナレバ亦以テ繁殖用トシテ不可ナキ者トス而シテ兩者共ニ老齡ナル時ハ多クハ其子ハ短軀虛弱ナルヲ常トス故ニ「バングム」種屬(チャボノ類)ヲ除クノ外老齡ナルモノヲ種禽トスベカラズ而シテ其數ハ普通壹雄ニ五乃至八雌ヲ適數トス

配偶法

二二

前數項ニ於テ種禽撰擇ノ必要ナル理由及遺傳ノ何者ナルカハ略之ヲ説ケリ然レモ配偶法ヲ知ラザレバ改良ノ目的ヲ以テ撰種セシ者モ徒勞ニ終ルノミナラズ時ニ或ハ意外ノ惡結果ヲ生ジ吾ガ勞ニ酬ニルモノハ疲勞ト歎息ノ外ハ只四隣ノ嘲笑ヲ購ノミ然リ而シテ此惡結果ハ其一人ニ止マラズシテ後進者ヲ迷シメ終ニ養鷄副業ノ發達ヲ阻害スル所頗ル大ナルモノアルニ至ラン故ニ讀者或ハ趣味ナカランモ稍詳細ニ之ガ説明ヲナサント欲ス農家諸士ニシテ本書ヲ讀マントスルモノハ飼養ノ念アレバコソ己ニ飼養ノ念アリテ本書ヲ讀ム若シ一片午睡ノ呂伴トシ長夜消時ノ具トナスハ益ナシト雖モ尙可ナリ而モ一指一雖モ之ニヨリテ事實ニ染メント欲セバ先ヅ繁殖ノ根元タル配偶法ト其結果ノ如何ヲ熟讀會得スベキナリ特ニ贅言ヲ付シテ茲ニ注意ヲ促ス

之ヲ別チテ左ノ三法ニ區別ス

一親簇配偶

一同簇配偶

一異簇配偶

親簇配偶トハ同血簇間ノ配偶ニシテ仮令バ親子間又ハ兄弟、從兄弟、間等ノ配偶ニシテ血統間血縁ヲ有スルモノ、間ニ行フノ謂ヒナリ更ニ之ヲ別チテ近親簇配偶及遠親

簇配偶ノ二者トス其近キ者ヲ以テ近親簇配偶ト稱シ其遠キ者ヲ指シテ單ニ親簇配偶又ハ遠親簇配偶ト謂フ此遠近ヲ區別スルニハ論者ニヨリテ一定セズ或ハ一、二、等親ヲ近親トシ他ヲ遠親トナスモノアリ或ハ五六等親迄ヲ近親ト論ズルモノアレドモ余ハ遺傳力ノ強弱對照ノ事實ニ於テ其何等親迄ヲ近親トシ遠親トスルガ如キ區別ヲ附スルノ寧ロ愚ナルヲ嚙ハントス何トナレバ風土、飼養、管理、等相等シキモノ、四、五、等親ヨリモ外界諸般ノ事情ヲ異ニシテ飼養セシ二、三、等親ハ反而同簇ノ配偶ニ近キ結果ヲ示セバナリ故ニ余ガ茲ニ近親ト稱スル所ノモノハ其複雑ナル理論ハ本書ノ目的ニ非ザレバ之ヲ避ケ仮ニ同一狀態ノ下ニ飼養セラル、親子、兄弟姉妹(異父、異母ヲモ含ム)從兄弟、姉妹間ヲ指シ其他ヲ遠親トスベシ

此配偶法ハ遺傳ノ力頗ル強ク故ニ或ル交雜其他ニヨリ一新種ヲ作製セシ場合短日月ニ能ク其特徴ヲ固定セシムル必要アル時ハ必ず親簇殊ニ近親簇ノ配偶ニ依ルベシ然ラザレバ其目的ヲ達スル能ハザルベシ次ハ己ニ固定セシ種類ニ有テモ鳴聲、又ハ冠形、或ハ其他姿勢等特ニ愛スベキ美点ヲ其子孫ニ能ク享有セシメント欲スル場合ニモ亦此親簇配偶ヲ行フベシ然レモ遺傳力ノ強勢ナルダケ又欠点ノ遺傳モ之ニ伴ヒ且ツ久數之ヲ行フハ體質頗ル纖弱ニ陥リ産卵遞減シ受精不良ノ惡結果ヲ來ス者トス同簇配偶トハ同種中ニシテ系統血縁ノ相異ナレル雌雄ヲ配偶セシムルモノヲ云フ即

チ純粹種ヲ保持繼續セシムル場合一般ニ行フ方法ニシテ己ニ固定セル種類ニ行ハル
 方法トス然レドモ農間副業的ニ飼鶏ヲ爲スモノニアリテハ單ニ其種ヲ保持セシ
 ニノミ意ヲ傾ケ不知不識ノ間ニ近親ノ配偶ヲ行ヒ數代ニシテ生産上劣惡ニ變退セシ
 メ遂ニ養鶏難ヲ漏スニ至ル蓋シ配偶ノ方法ト其結果ヲ知ラザルノ罪ノミ故ニ或ル種
 ヲ飼養シ其鶏ヲシテ永ク惡變劣退ヲ避ケ保持セシメント欲セバ可成血簇ノ相異レル
 然ラザルモ可成遠親ノ者ヲ需メテ時々其雄鶏ヲ換ヘ所謂同簇ノ配偶ニヨリテ繁殖ヲ
 圖ルベシ然ル時ハ遺傳力ニ於テ親簇ノ配偶ニ及バズト雖モ己ニ固定セシ種類ナラン
 ニハ能ク其種ノ本能特質ヲ子孫ニ傳承セシメ又生産ニ將體質ニ當初ノ結果ヲモ保持
 シ得ルモノトス若容易ニ血簇ノ相異ナレル者ヲ得ル能ハザル時ハ正確ナル同簇ノ配
 偶ニ及バズト雖モ可成遠親ノ者ヲ求メ止ムヲ得ザレバ近親ノモノト雖モ中繼時代ヨ
 リ飼養、風土、氣候、等可成相異セル地方ニ預ケ一、二歳ノ後之ト配セバ親簇配偶ニ
 ヨル惡變ハ大ニ削減シ得ルモノトス

異簇配偶トハ種ノ相異ナレル者ヲ配偶シ中性ノ者ヲ得テ新種ヲ作出シ或ハ然ラザル
 モ兩種ノ有スル特性良質ヲ一時ニ廣ク其子ニ賦與シ一代限リノ雜種ヲ作ルニ用ユ通
 俗之ヲ交雜ト云ヒ又掛合ト云フ此一代限リノ雜種ハ遺傳力ニ於テ殆ンド價值ナク隨
 テ種禽タルノ資格ヲ有セズト雖モ純粹種ニ比シ多クハ壯健ニシテ肥ヘ易ク産卵亦佳

區ナリ故ニ實用鶏トシテ稍多數ノ鶏ヲ飼養スルモノ、往々行フ方法ナリ然レドモ僅
 ニ五羽乃至拾羽ノ小數ニアリテハ他ト共同合議ノ場合ニ非ラザレバ之ガ作出ニ困難
 ナリトス何トナレバ其作製シタル雜種ノ種禽タル價值ナキガ爲ニ一度之ヲ行フ時ハ
 又次年ニ至リテ更ニ他ヨリ純粹種ヲ購フニアラザレバ能ハズ然ラザレバ常ニ二種ノ
 純粹種ヲ飼養保持セザル可カラザルガ故ナリ常ニ二種ヲ保持シ更ニ之ガ一代雜種ト
 フ合シテ三種トナサバ舍モ又三區ニ區分處理セザル可カラズ如斯ハ副業トシテ飼養
 スルモノ、容易ニ行ヒ得ベキ所ニアラザレバナリ

全良種作出法 本法ハ健康ト生産ヲ増進シ仮令然ラザルモ退却ヲ防グヲ以テ唯一
 ノ目的トシ併テ種類保持ヲ爲スノ方法ナリ即チ同簇ノ配偶ト雖モ其根元ヲ追究セバ
 必ヤ祖先ノ一ナリシヲ認メ得ン然レバ今日同簇ノ配偶ト稱スルモノモ最遠親簇配偶
 ニ外ナラズ況ンヤ人類ノ如キ戶籍法ナキ限り或ハ轉々シテ意外ニ近親タル無キヲ保
 セズ故ニ熟練ナル技倆ト非常ノ注意ヲ爲スニ非ラザレバ仮令同簇ノ配偶ニヨルモ永
 遠ニ當初ノ體質ヲ持續シ健康ト生産ヲ助長スル事難シ此場合ニ於テ比較的平易ニ目
 的ヲ達セシムルノ法唯全良種ト爲スノ外ナシ全良種トハ一種ノ淨血法ニシテ他種ノ
 血液ヲ混シ系統的血液ヲ一新セシメ六回ノ交雜ニヨリテ殆ンド素ノ純粹種ト同一形
 質タラシムルノ方法ヲ云フ即チ左ノ如シ

今仮ニ「ミノルカ」全良種ヲ製出セントシテ「プリマウスロック」種ヲ用ヒンカ第一回ノ雜種ハ五分雜種或ハ二分ノ一雜種トナリ（此雜種必ズシモ二分ノ一即チ兩種ノ中性ノミナラズ多クハ其何レカニ偏似シ易キヲ常トス然レドモ可成中性即チ五分雜種ト認め得ベキ者ヲ撰ミ用ユベシ以下二分ノ一乃至四分ノ三等各數字標準ニヨリテ撰擇スベシ第二回ノ交雜ニ又「ミノルカ」種ヲ用ユル時ハ四分ノ三雜種ヲ得第三回ノ交雜ニ又「ミノルカ」種ヲ用フル時ハ八分ノ七雜種ヲ生ジ如斯クシテ第四回ニ十六分ノ十五第五回ニ三十二分ノ三十一第六回ニ至テ六十四分ノ六十三雜種換言セバ六十四分中六十三ノ「ミノルカ」血液ト六十四分ノ一ノ「プリマウス」血液ニヨリ成レル雜種ヲ得ルナリ然ル時ハ他種ノ血液ハ僅ニ六十四分ノ一ナルガ故ニ殆ンド純粹種ト異ナル点ナク而モ新血液混入ノ爲メ體質ノ强健ト生産増進ノ目的ヲ達シ得ルナリ牛馬ニアリテハ六回ノ雜種ハ己ニ純粹種ト稱セドモ家禽ニアリテハ之ヲ便宜上全良種ト名ヅク實用ノ目的ニアリテハ蓋シ本法ノ右ニ出ルモノナカラン然レドモ此方法モ又專業乃至組合團結ノ力ニヨラザレバ恐ラクハ容易ノ業ニアラザル可シ

種禽撰擇上ノ條項

配偶ノ方法及目的ニ就テハ前項述ブル所ノ如シ然レドモ種禽撰擇ノ方法ニシテ當ヲ

失センカ決シテ豫期ノ目的ヲ達スベキ者ニ非ズ愛玩ハ暫ク惜キ生産ノ目的ニ對シテハ卵用種ト雖モ同ジクハ体大ヲ希望シ肉用種ト雖モ多産ヲ欲スベシ然ル時ハ其用途種類ノ何タルヲ問ハズ左ノ條項ニ寄リテ撰擇スベシ

- (1) 健康ニ異狀無キ者タルベキ事
- (2) 其種特有ノ形質上欠点少ナキ者タルベキ事
- (3) 可成体大ノ者タルベキ事
- (4) 性温順ニシテ敏捷ノ者タルベキ事
- (5) 卵形正シク殻色美ニシテ多産ノ者タルベキ事
- (6) 雌卵ヲ多ク産スル者タルベキ事
- (7) 惡癖ナキ者タルベキ事

以上ノ七項ニ就テ出來得ベキ限リ注意撰拔セシ鶏ハ種禽タルノ資格ヲ備フト雖尙雌雄ヲ相配スルニ當リテ更ニ左ノ各項ニ注意スベシ

- (8) 多淫ナル雄鶏ハ種禽ニ適セズ
- (9) 胸部狭ク脚ノ過長ナルハ雌雄共ニ除外スベシ
- (10) 雌鶏ヨリモ稍若キ雄鶏ヲ用ユベシ
- (11) 冠、毛冠、耳朶ノ色澤、毛髯、鷹膝、脚毛、等ハ遺傳力最モ強キガ故ニ以上ノ

諸点ノ欠点ナキ者ヲ撰ムベシ

(12) 比較的雄鶏ハ体軀圓ク充實ナルヲ可トス

(13) 雌鶏ハ可成体軀長キ者ヲ採ルヲ可トス

前各條項中(1)(2)(3)(4)及ビ(9)ハ何人モ普通ニ注意シツ、アル事項ナリ而シテ其他ノ條項ニアリテモ自家ニ飼養スル鶏ニアリテハ(5)(7)ノ兩項ハ亦注意撰抜ニ難カラザルノミナラズ敢テ吾人ノ注意ヲ待タザルモ一般ニ於テ己ニ留意スル所ナラン(8)(6)(10)(11)(12)(13)ノ六條項ハ難事ニアラズシテ而モ種禽撰擇ニ當リテ等閑ニ附スルモノ多シ然レドモ(11)以外ノ五條項ハ之ニヨリテ得タル仔雛ノ強弱及ビ体軀ハ大ナル關係ヲ生ズルガ故ニ決シテ忽諸ニ附スベカラザルナリ只(6)ノ一項ハ至難ニシテ少ナクモ七八年ノ年月ト幾多ノ煩ヲ耐ヘザレバ之ヲ行フハ至難ノ業タリ然レドモ若シ此一項ニシテ七割以上ノ雌卵産系統ヲ撰擇シ得バ現時ニ二倍スル純益ヲ得ンコト敢テ難事ニアラザルベシ以下(5)(6)ノ二條項ニ就テ其撰擇ノ方法ヲ述ベン

(5)ニ於ケル卵形殻色等ハ容易ニ撰抜シ得レドモ多産ナルモノヲ撰抜センニハ各雌鶏ノ脚部ニ番號金具ヲ嵌シ捕鶏巢(鶏ガ産卵ノ爲メ此箱内ニ入ル時ハ同時ニ蓋ヲ掩ヒ出ズル能ハザル様装置セシ産卵箱ナリ)ヲ用ヒ卵ニ番號ヲ附シテ多産ナルモノ、卵ヲ孵化スルニアリ雌卵産ノ系統撰抜モ又斯ノ如クシテ得タル雛ニヨリ其多ク雌鶏ヲ

生シタルモノ、ミヲ淘汰スルニアリ然レドモ如上ノ方法ノ如キ一般農家ニ行ヒ易カラズ故ニ此方法モ專業ニ非ザレバ生産組合等ノ團體ノ力ニヨラザル可カラズ然レドモ多産系ヲ撰擇スルニ稍完全ニ近キ平易ナル撰抜法ナキニ非ザレバ左ニ之ヲ綴セン

- 一 午前中ニ産卵スルモノハ午後ニ産卵スルモノニ比シ多産ナリ
 - 一 腰部ノ大ナルモノハ小ナルモノニ比シ産卵多シ
 - 一 頭部小ニシテ胸部大ナルモノハ多産ナリ
 - 一 温良ニシテ舉動敏捷ナルモノハ粗暴又ハ怠慢ナルモノニ比シ多産ナリ
 - 一 脚過長ナルモノハ産卵少ナシ
 - 一 背羽ノ汚損又ハ搔乱ナルモノ、能ク交尾スル表徴ニシテ概テ産卵住良ナリ
 - 一 夕餌飽食後就寢ノ速ナルモノハ多産ナルモノニ多シ
- 以上ノ條件ニ注意シテ雌鶏ヲ撰擇セバ捕鶏巢ヲ用ヒシ如ク確實ナラズト雖短時日ニ比較的多産ノ系統ヲ撰抜シ得ベシ

孵化時期ト孵化法並ニ檢卵

孵化ノ最好時期トノミ問ヘバ何人モ春期ヲ以テ之ニ答ヘン然レドモ春期ノ孵化ハ鶏

其者ニ對スル好時期タルノミ其雛ハ他期ニ比シテ飼養シ易ク體軀ノ發育良好ニシテ優姿ナルモノ多キガ故ナリ若シ收利ノ如何ヲ同ハバ春雛ノ秋雛ニ及バザル事遠シ又其目的ノ圖等ニアリテハ一月ヲ最良期トシ「バンダム」種屬ニアリテハ十一月ヲ適期トス故ニ目的事情等ノ如何ニヨリテ其期節ヲ異ニス期節異ナレバ隨テ飼養管理ノ方法異ナラザル可カラズ左ニ利益及目的ニ對スル各期ノ得失ト其合理的孵化法ヲ摘録セン

早春孵化 早春ノ孵化ハ氣候尙寒冷ノ時期ナルガ故ニ羽出等ノ寄生蟲ヲ生ズル事ナク母鶏ノ疲勞亦少ナク故ニ孵化トシテハ食餌脫糞ノ際離巢シテ長期間放冷シ凍傷セシメザル限リ良好ノ結果ヲ收メ得ベシ然レドモ育雛ニ際シ防寒ノ注意ヲ要シ孵化後三四週間ノ飼養比較的容易ナラザレバ産卵ヲ目的トスルモノニアリテハ多ク孵化スルコトナシ然レドモ早春ノ雛ハ體質強健ニシテ姿勢優良且ツ忍耐力ニ富ミ加之ナラズ年内ニ於テ完全ニ發育ヲ遂グルヲ以テ身長、年齢、体重、等ニヨリテ對手ヲ定メ陣頭ニ立チテ敵ト奮闘シ勝テバ群勇ニ誇リ敗ルレバ死シテ後能ムテフ勇壯果敢ナル軍鶏ニアリテハ此時期ヲ以テ最良トス次ハ種禽用(其目的卵用ト肉用ヲ問ハズ)乃至品評會出品用鶏トス是體軀壯大姿勢優良ナルガ故ニ品評會ニ將タ又種禽トシテ子孫ニ其優秀ノ諸点ヲ傳フニ適スレバナリ此時期ニ於ケル抱卵數ハ抱温ノ至タキヲ要スル

ガ故ニ體量五六百目ノ母鶏ニシテ拾貳叁個ヲ超ヘザルヲ可トス

中春孵化 茲ニ中春ト稱スルハ三四月ノ頃ヲ指セル者ニテ種卵ノ孵化力最モ旺盛ナルノミナラズ母鶏ノ疲勞スル事少ナク雛ノ飼養モ殆ンド自然ニ放任スルモ尙能ク發育ヲ妨ル事ナク育雛ニ最モ恐ルベキ實扶的里其他ノ傳染性病敵ノ襲來モ多クアル事ナシ故ニ一般副業養鶏家ノ最好孵化時期トス唯怨クハ産卵期ニ達スルノ甚ダ遅延スル一事トス此時期ニアリテハ能ク一母鶏ニ拾五個ノ卵ヲ抱カシムルヲ得ベシ
晚春孵化 晚春トハ五六月ノ頃ヲ謂フ此時期ハ雌鶏ノ巢念ヲ發スル事頗ル多ク隨而時期ノ不良ナルヲ知リツ、抱卵ヲ敢シテ懸テ氣候ハ梅雨ニ入り冬作ノ收穫ト挿秧ニテラデタニ至難ノ育雛ナド願ミル餘暇ヤアラン霖雨モ之ヲ凌グノ所置ヲ怠リ濕陰ノ賊風託ツベキ因モナク終ニ疾病ノ襲來ニ委シテ斃滅ニ歸スルニ至ラン故ニ雌鶏ノ巢念ヲ生ズレバ隨テ離巢セシメ決シテ孵化セシムベカラズ
夏期孵化 七八ノ兩月ヲ謂フ此時ニハ前者ニ比セバ稍困難少ナシト雖モ而モ實扶的里ノ來襲甚ダシキハ時期ノ然ラシムル所故ニ「バンダム」種屬ノ如キ矮小ヲ目的トスルモノ、外亦孵化スベキ時期ニ非ザルナリ
秋期孵化 九、十ノ兩月ニ孵化スルモノヲ謂フ此時期ハ春期ニ比シ巢念ヲ起スモノ少ナク種卵ノ孵化力亦春期ニ及バズ且ツ害蟲ノ發生ニモ幾分ノ注意ヲ要シ母鶏ノ

疲勞モ春期ニ比シモ大ナリト雖モ産卵期ニ達スル事極メテ早ク春期ニリアテ八ヶ月ヲ要スル種類モ秋期孵化ニアリテハ六ヶ月ニシテ已ニ産卵スルニ至リ且ツ春期孵化ノ鶏ハ秋期乃至初冬ノ頃ヨリ産卵ヲ初メ市價ノ低落時期タル春期ニ至リテ産卵最も多ク晩春稍市價ノ騰ラントスルニ伴ヒテ産卵モ亦減少シ盛夏需用旺盛ノ時期ニ至リテ殆ンド産卵ヲ休止スルニ反シ秋期孵化ノモノハ晩春ヨリ孵化ヲ初メ卵價ノ上昇ニ伴ヒテ産卵豊富ノ成熟期ニ入ル故ニ得ル所ノ卵數ハ敢テ多キニ非ザルモ價格ノ点ニ於テ著シキ差アリ故ニ數割ノ多産セシト同一結果ヲ収メ得以テ孵化率ノ減少母鶏ノ疲勞等幾多ノ不利ヲ償ヒテ尙餘リアリ故ニ專業家ノ大半育雛ノ技ヲ有スル者ハ種禽用鶏ノミ早春ニ孵化セシメ其他ノ多數飼鶏ハ秋期孵化ヲ主トナス而モ空氣乾燥ノ度ハ春期ニ勝リ比較的發育良好ノ時期ナレバナリ此期ニ於ケル抱卵數ハ殆ンド春期ト同數ヲ抱カシメ得ルモノトス

冬期孵化 十一、十二ノ兩月間孵化スルモノヲ謂フ此時季ノ雛ハ氣温低キノミナラズ孵化後モ纖弱ナル幼雛時代ニ日ヲ追フテ寒氣ヲ加ヘ晩春及夏期ノ如ク疾病ヲ生ゼスト雖モ春秋ニ比シ頗ル困難ノ時期トス故ニ一般ニ於テ孵化セシムルモノ寡シ然レドモ保温ニ注意シ六七週ノ間無事通過セシメバ其後ハ頗ル強健トナリ又夏期ニ産卵スル事秋期孵化ニ優ルヲ以テ利益少ナシトセズ而シテ「バンダム」種ノ如ク矮小ヲ

尊重スル種類ニ有テハ氣候ノ作用ニヨリテ概テ矮軀短脚ノ發育ヲナス時期ナレバ此期ヲ以テ最好適期トナス抱卵數春秋ニ及バズト雖モ早春ニ比シ稍多ク抱カシムルヲ得

要スルニ種禽用トシテハ春期孵化ヲ第一トシ秋期之ニ次ギ食卵採取ニアリテハ秋期ヲ以テ利益最も多キ時期トナシ冬春之ニ次ギ「バンダム」種屬ハ冬期ヲ最良トシ夏期之ニ次ギ其他ノ期節ニアリテハ殊更ニ不利ト困難ヲ覺シテ孵化センヨリハ寧ロ遅ル、モ次ニ來ル可キ好時期ヲ待ツノ安全ニシテ且ツ目的ノ彼岸ニ達スル事ノ却テ速ナルモノアラン

次ニ孵化法ニハ天然、人工、準人工、ノ三種アリ天然孵化トハ雌鶏ノ巢念ヲ發セシモノニ抱卵セシムル方法ヲ云ヒ一般副業者ノ行フ方法ナリ人工孵化トハ醱酵熱、温湯熱、火熱等ニヨリ適當ナル温度ヲ卵ニ給與シテ孵化セシムルモノヲ謂ヒ準人工孵化トハ吐緩鶏ノ雌雄ヲ論セズ隨時ニ強制的伏巢セシメ之ニ抱卵セシメテ孵化ヲ行フノ方法ヲ云フ然レドモ玆ニハ天然孵化ノミニ就テ摘要ヲ記サン

抱卵座 抱卵座トハ母鶏ヲシテ抱卵セシムル巢ノ義ニシテ副業養鶏ノ諸設備中ニ述ベタル所ノ籠又ハ箱ヲ用ヒ藁ヲ以テ中央ヲ稍低ク盃狀トシ更ニ八ツ切莖（方一尺四五寸）二枚ヲ交互ニ敷キ其中ニ卵ヲ入レ抱卵セシムベシ座ノ中央凹低ナラザル時

ハ多數抱卵シ能ハザルノミナラズ腹外へ轉出シ冷却スルノ恐レアレバナリ而シテ場所ハ可成暗所ニ置キ毎日時刻ヲ定メテ冬期及早春ニアリテハ貳參拾分間中春ト秋期ニアリテハ三四十分間乃至壹時間巢外ニ出シ飼料ヲ給シ且ツ少時沙浴セシムベシ然ル時ハ巢鶏ハ其間ニ餉食シ脱糞シ多少ノ運動ヲ爲シ又翌日ノ給食時迄抱卵シ敢テ巢内ニ脱糞スルガ如キ患ナシ抱卵中若シ卵ヲ破損シテ座内及他ノ種卵ヲ汚シタル片ハ微温湯ヲ以テ洗滌シ布藁藎等ヲ取換フベシ孵化ニ近ヅキタル片ハ母体ヲ檢シ羽虫等ノ發生ヲ見バ二枚ノ敷藎ノ間ニ一摘ノ除虫菊粉ヲ散布シ且ツ母体ノ各部へ羽毛ヲ逆立セシメテ除虫菊粉ヲ其間ニ散布シ置ク時ハ寄生蟲ヲ驅除シ得テ雛ヲ安全ニ生育セシムル事ヲ得而シテ抱卵中快晴ナル時ハ水分不足ノ爲メ雛ノ孵出脱殻ニ長時間ヲ要シ爲ニ殻内ニ斃死スル事アレバ斯ノ如キ場合ニハ十七八日目ヨリ母鶏ヲ食餌ニ出シタル際水ヲ卵面ニ吹掛クベシ但シ我國ニ於テ如斯場合ハ殆ンド稀有ノ事ナリト雖モ空氣ノ乾燥セル秋期孵化ニ當リテハ又絶無ヲ保シ難シ故ニ茲ニ附記ス

次に檢卵ノ方法ヲ略述セン檢卵トハ孵化ノ目的ヲ以テ抱卵又ハ孵卵器ニ入卵シタルモノ卵中無精卵(雖トナルベキ機能ナキ者)又ハ死卵(受精不完全ノ爲メ漸ク初期ニ於テ、蛋黃内ノ胚子發育ノ状態ヲ現スモ數日ニシテ發育状態ヲ持續スルノ力ヲ失ヒ死ニ至リタル者)又ハ冷却、震動、等ニヨリ發育状態ヲ休止シ又停止シテ回復シ得ザリ

シ者)ヲ除去シ一ハ母鶏ノ苦痛ヲ輕減シ一ツハ腐敗セザルニ先ダチ食用ニ供シ得セシメンガ爲ナリ之ヲ檢卵ト謂フ檢卵ハ普通六七日目ニ行フト雖モ白殻卵ニアリテハ抱卵後四日目ニ至レベ能ク檢卵シ得ベシ其方法ハ檢卵器ヲ用フルヲ完全ナル方法トナセドモ普通ノ場合ニ有テハ殆ンド其必要ヲ認メズ小冊子又ハ「ハガキ」ノ類ヲ以テ經一寸五分内外ノ圓筒形ニ卷キ日光又ハ燈光ニ面シテ其尖端ニ卵ノ鈍端ヲ上部トナシ密接セシメ他ノ一方ヨリ之ヲ窺フ時ハ卵ハ帶黃色ノ半透明体トナリ上部ニ氣胞ヲ認メ得ベシ而シテ其少シク下部即チ卵ノ中央部ヨリ少シク上リタル所ニ豆大ノ赤色斑点ヲ透視シ得是レ胚子ノ心臟ニシテ其中心トシテ四方ニ蜘蛛巢狀乃至樹根狀ヲナセル幾多ノ赤線ヲ見シ是レ胚子ノ動脈血管ニシテ(日ヲ經ルニ隨テ太ク且ツ彌蔓ス)孵化機能ヲ有スルモノナリ然ルニ無性卵ハ血球血線共ニ認ムル事能ハズ新鮮卵ト敢テ異ナルナシ又血球ヲ有スルモ稍黒色ヲ呈シ樹根狀ノ血線ナキカ或ハ血線アルモ中心ノ血球点ト離レ環狀ヲ呈シ又ハ半圓乃至歪圓ヲ畫スルモノハ死卵トス若又血球血線共ニ具備スルモ他ノ卵ニ比シ血線擴布ノ面積少ナク又ハ中央血球ノ黒色ヲ帶ビ死卵ノ疑アル者ハ除ニ回轉震動シ中央暗点ノ豁大ニ淨動スルガ如ク見ユルハ發育機能ヲ有スル者ニシテ然ラザルモノハ死卵ナリ之等ノ卵ハ皆除去シ無性卵ハ新鮮卵ト敢テ大差ナク死卵ト雖モ七日以内ノ者ハ熟煮セバ食用ニ供シ得ベシ

育雛ハ養鶏業中至難ノ事業ニシテ其成否ハ直チニ損益ノ岐路タルナリ然レモ副業的
 小敷飼養者ニアリテハ之ガ爲メ多大ノ注意ヲ拂ヒ時間ヲ分ツ能ハズ然リト雖モ多大
 ノ注意ヲ拂ハズ多クノ時間ヲ分タズバ以テ育雛ノ成功ヲ期シ難シトセバ副業トシテ
 養鶏ノ獎勵ヲナス能ハザルニ終ラン然ラバ簡易ニシテ能ク育成セシメ得ルノ法ナカ
 ル可カラズ余ハ其簡易ノ方法ヲ説クニ先ダテ讀者ニ借問セントス勞多キ時必ズ利
 多キヤ余ハ信ズ其商業ト工業ト將農業トヲ問ハズ目的、作業共ニ相同ジキ場合利多
 キ時ハ多クハ勞反テ少ナク勞多キ時寧ロ損失ヲ生ズルモノアルヲ然ラバ如何ニセバ
 簡易ニシテ能ク育成セシメ得可キ乎他ナシ只自然ニ從フ者ハ勞セズシテ得自然ニ逆
 フモノハ苦ンデ失フノミ何ヲカ自然ト云フ雛ノ欲スルガ儘ニ運動セシメ食ハント欲
 スルガ儘ニ食ハシメ只一所ニ集團シテ寒ヲ訴ルガ如キ狀アル時之ヲ保護スルノミ世
 育雛ノ方法ヲ説ク者或ハ火力育ヲ可トシ又ハ無給水育ヲ利トシ若クハ溫度ノ一定ヲ
 必要條項ニ算ヘ給餌ノ量ヲ云々スルモノアレドモ此等ハ人工ヲ以テ自然ニ逆ヒ或ハ
 殊更ニ彼ガ天賦ノ抵抗性乃至免役性ヲ薄弱ナラシムルニ過ギズシテ一般農家ニ行ハ
 シム可キコニアラズ否行フ能ハザル所ナリ今茲ニ具體的ニ育雛ノ順序ヲ述ブレバ

餌附ハ孵化後少ナクモ廿四時間以後ニアラザレバ反テ消化器ヲ損フヲアルベシ故ニ
 孵化後一日半乃至二日間ハ其儘靜ニ休養セシメ脚力強健トナルヲ待テ母鶏ト共ニ
 巢外ヘ出シ給餌スベシ先ヅ初メハ青菜ノ細切セルモノト玄米碎又ハ粃米、等ト飲用
 水トヲ給シ箱又ハ伏籠中ニ飼養ス二三日ヲ過ギテ雛體ノ稍堅實スルニ至ラバ動物質
 ヲ給スルヲ可トス

動物質、飼料トシテハ燒縮(鱈ヲ米糠中ニ投ジ粘質ヲ糠ニ吸收セシメ焙烙又ハ鍋ニ
 テ熬リ二三十分間風乾シ細切シタルモノ)ヲ第一トシ燒鮓しらすほし、鷄毛脫、小沙魚、皇蠶等
 之ニ次グ鵝毛脫及小沙魚等ノ鹽分アルモノハ煮テ用ユベシ而シテ朝夕注意スベキハ
 嘔瀉ノ檢査トスタ刻ニ嘔瀉中ニ餌無キモノハ病雛ニシテ充滿セルモノハ健雛トス又
 翌朝嘔瀉ニ殘餌アルモノ又ハ水ノ充滿セル如キハ不健康ノ症ニシテ何物ヲモ存ゼザ
 ルヲ可トス(之ニ對スル注意手當等ハ夫項害蟲及疾病ノ項ニ説明ス可シ)

運動ハ母鶏保育ニアリテハ放任シ置クモ不可ナシト雖モ三週間以内ニアリテハ或ル
 區域ヲ設クルヲ得策トス絶對ノ放飼ヲナス時ハ雛ハ母鶏ノ漫歩搔魚ニ伴フテ東西ニ
 奔馳シ体力過度ノ運動ヲ強ヒ反テ發育ノ遲緩ヲ來スコトアリ
 離母ハ冬期ニアリテハ四週間其他ハ三週間前後ヲ適當トス又人工育ニヨルトキハ三
 四週間ハ石油用箱ヲ横ニシ上部一方ノ板ヲ除キ二個ヲ重疊シ下ノ箱ニハ火鉢ヲ入レ

之ニ炭團又ハ炭火ノ少量ヲ入レ能ク灰ヲ掩ヒ除ロニ上部ノ箱ノ底ヲ温ムル様ナシ切
 藁一、二寸ヲ敷キテ之ニ雛ヲ移シ飼料飲水ヲ給スルコト母鶏保育ト同シ而シテ火力
 ハ十一、十二、一、二、三、ノ五ヶ月間ハ雛箱内ニ温度ヲ給スルノ要アリト雖モ其他ノ
 期節ニアリテハ敷藁ノ乾燥ヲ目的トナスガ故ニ雛箱ノ上部ヲ布等ヲ以テ掩フ可カラ
 ズ仮令冬期ト雖モ雛ノ密集佇立シ寒ニ堪ヘザルノ狀ヲ爲サザル限リハ掩布ノ一部ヲ
 開キ可成的清潔ナル空氣ヲ呼吸セシムルト同時ニ能ク低温ト氣温ノ變化ニ馴レシ
 メ以テ外界無限ノ變化ニ抵抗シ得ル體質タラシムベシ三四週間ノ後箱ヨリ出シ放飼
 又ハ柵飼トナスニ當リテハ晴天ノ日ヲ撰ミテ行フベシ雨天等ニシテ運動不足動作不
 活潑ナル時ハ時々人工運動法ヲ行フヲ要ス

人工運動法ニ二方法アリ一ハ燒燻又ハ他ノ嗜好物ヲ細切セザル儘雛ハ五羽ニ對シ一
 個位ノ割合ニテ投與セバ互ニ爭奪シテ東奔西馳暫クハ之ガ爲メニ運動ヲナスベシ他
 ノ一法ハ雛ニ細切セル青菜ノ給與ヲ停止シ數葉ノ青菜ヲ其根部ニテ縛シ雛ノ身長約
 三倍位ノ高サニ懸垂シ置ケバ雛ハ下ヨリ之ヲ啄バマントシ跳躍シ以テ運動ヲナス此
 二方法ハ梅雨期等ニ行ヒテ殊ニ効アリ而テ雛ノ成長ニ隨テ飼料ヲ變更シ又ハ一定
 ノ飼料ノ欠乏ヲ來シ他ノ飼料ト變更ノ必要ヲ生ゼシキハ豫メ五七日前ヨリ變更セシ
 トスル飼料ノ幾分ヲ混合シ除々變更シ決シテ急變スベカラズ蓋シ飼料ノ急變ハ往々

胃炎又ハ下痢等ヲ惹起セシムル事アレバナリ而シテ雛ノ成長シテ箱飼ヨリ舍飼ニ移
 スモ三ヶ月以内ニハ決シテ圓木ノ止リ木ヲ用ユベカラズ鶏ノ胸骨曲レルハ時ニ疾病
 ヨリ來ルモノアリト雖モ多クハ中雛時代ニ於ケル圓木就寢ニ起因スレバナリ

夜間ノ注意 育雛中最モ注意ヲ要スベキハ晝間ノ取扱及飼料ヨリ來ルヨリモ寧ロ
 夜間彼レガ寢房ノ如何ト寒熱ノ偏寄ニヨルモノ多シ何トナレバ晝間ハ身自ラ注意シ
 覺悟シ加フルニ血液ノ循環可良ニシテ又能ク外界幾多ノ不良ナル状態ニ抵抗シ得ル
 モ夜間安靜睡眠ノ時ニ於テハ抵抗力著シク減退ス多クノ疾病ハ此時ニ於テ襲來スベ
 シ故ニ箱内ニハ乾燥セル藁、糲糠等ヲ敷キ且ツ天候ト羽數ニヨリ掩布ヲ加減スベシ
 雛ノ一所ニ重集スルハ温度ノ不足ヲ訴フルモノ又相離散シ体ヨリ兩翼ヲ隔テ、展開
 シ飼飼ノ狀ヲナスモノハ高温又ハ蒸熱ニ苦ムモノナレバ共ニ注意シテ適宜ニ相併列
 就寢ノ状態ニナラシム可シ

以上述ブル所或ハ至難ノ如ク思フモノアラシモ實際ニ就テ少シク留意セバ五七日ニ
 シテ能ク其適當ナル程度ヲ會得シ得シ諸氏ヨ注意ハ形無キノ動作ニシテ又無限無量
 ノカラ行ス若シ肉体ノ働キト時間ヲ金ナリト言ハバ是レ有形ニシテ有限有量ナリ有
 限有量ハ敢テ無限無量ノ注意ト對照スルヲ待タザルナリ

親鷄飼養法

四〇

專業養鷄ニアリテハ飼料、管理共ニ大ニ熟練ヲ要ス可キモ副業ニアリテハ頗ル簡單平易ノ者ニシテ又簡單平易ニアラザレバ能ハザル事トス飼料ハ甚ダシキ粗惡又ハ酸敗セザル限リハ之ヲ用ユルヲ得ベシ然レドモ多少ノ注意ナカル可カラズ今其ノ法意スベキ点ヲ列舉セバ

- (1) 毎朝舎ヨリ出ヅル時鷄ノ舉動ヲ觀察シ不活潑ノモノアラバ之ヲ捕ヘ眼、鼻、口及冠色肛門等ヲ查視シ異狀ナケレバ羽蟲ノ有無ヲ檢シ更ニ舎内ニ於ケル夜間ノ脱糞ト其鷄ノ舉動ニ注意シテ不活潑ナル原因ヲ發見スベシ
- (2) 毎朝飲用水ヲ取替清潔ノモノヲ給スベシ
- (3) 脱糞ハ數日間放棄シ置クベカラズ脱糞ノ放置ハ單ニ不潔ナルノミナラズ鷄ノ健康ヲ害シ糞蟲ヲ發任セシメ亦間接ニハ肥料トシテノ價値ヲ損スル事多大ナリ
- (4) 鷄ヲシテ驚駭セシムベカラズ鷄ノ止リ木ハ高クモ地上三尺以上ニ設クベカラズ共ニ産卵ヲ休止セシメ或ハ産卵ヲ不良ナラシムレバナリ
- (5) 柵内ニ飼養スルモノニアリテハ青菜ノ給與ヲ怠ルベカラズ青菜ノ給與ハ飼料

ノ經濟ト産卵促進ト卵質ノ改善ト家禽ノ健康保持トニ必要欠クベカラザル飼料ナリ

- (6) 柵内ノ飼養ニハ青菜ノ外小砂利、貝殼碎、等ヲ給スベシ蓋シ鷄ノ消化作用ハ化學的消化ノミニアラズシテ沙糞（俗ニ「クソブクロ」ト稱ス）ニ於テ磨擦的消化ヲ爲スガ故ナリ

以上ノ六項ハ注意ノ如何ニ依リテ敢テ多大ノ手數ヲ要セズシテ飼鷄ノ安全確保ヲ得ベシ是即チ前項未ニ所謂無形ノ働ラキニヨル無限ノ利益ナラン乎其疾病、餌料等ニ就而ハ項ヲ別チテ細述スベシ

放飼ト柵飼

副業的飼鷄ト云ヘバ讀者ノ多クハ放飼ヲ連想セン然レドモ副業ト放飼ハ何等ノ關係アル事ナシ米、糠ニ於ケル養鷄法ハ種禽家ハ多ク柵飼ナレドモ食卵採取ノ目的ヲ以テ而飼養スル者ハ多ク放飼ニ屬ス我邦ニ於テモ千葉縣ノ養鷄ハ副業的放飼ニヨリテ成効シ愛知縣ニ於ケル養鷄ハ專業ト副業トヲ問ハズ其大部分ハ柵飼ヲ以テ日出島帝國ノ牛耳ヲ取ルニアラズヤ然リト雖因習ノ久シキ之ヲ打破スルハ容易ノ業ニアラズ故ニ今茲ニ其是非ヲ謂ハズ只諸氏ノ意ニ任ジ放、柵兩飼養法ニ就テ其利害及方法ノ概

略ヲ摘録セン

放飼トシテ利益アル諸点ハ次ノ如シ

- 一 雜草ノ若芽等ヲ啄食スルガ故ニ青菜給與ノ必要ナシ
- 一 竹林中ニ飼養スルモノハ動物質飼料豊富ニシテ産卵頗ル多ク其他ノ場合ト雖モ
- 一 柵飼ニ比シ産卵多ク卵質亦佳良ナリ(但大多數ノ場合ハ此限リニ非ズ)
- 一 少數放飼ノ場合ニハ飼料代ヲ要セズ(農家ノ副業トシテ適當ナル羽數ノ項參照)
- 一 普通ノ場合ニアリテハ柵飼ヨリモ健康ヲ保チ得肉味亦佳良ナリ
- 一 柵飼トシテ利益アル諸点ハ次ノ如シ
- 一 一種禽トシテ他種ノ交雜ヲ防グハ柵飼ニアラザレバ能ハズ
- 一 多産的系統撰抜ヲ行フ時捕鷄巢ノ使用ヲナサント欲セバ柵飼ヲ便且ツ正確ナリトス
- 一 代雜種等ノ實用鷄作出又ハ全良種作出等柵飼ニ非ザレバ能ハズ
- 一 比較的少面積ノ地ニ大多數ノ放飼ヲ爲ス時ハ青草混蟲等天與ノ良食ハ數日ニシテ殆ンド食ヒ盡シ爾後ハ過度ノ運動ニ体力ノ消耗スル所多ク從テ大食スルニ至リ不經濟トナル故ニ斯ノ如キ場合ハ柵飼ヲ利益アリトス
- 一 鷄一羽一ケ年ノ脱糞量ハ飼料ニヨリ差アレドモ五貫乃至十貫目ヲ得放飼ノ約倍

量ヲ收メ得ベシ

- 一 五七羽ノ場合ニハ能ク判別シ得レドモ少シク數多キ時ハ年齢ノ區分ヲナスニ放飼ニテハ番號金具等ヲ用ユルニ非ザレバ能ハズ
 - 一 放飼トシテ不利ノ諸点ヲ擧グレバ次ノ如シ
 - 一 附近ニ蔬菜苗圃又ハ蔬菜園アル時ハ搔乱ノ爲之ヲ皆無ニ至ラシムル事アリ故ニ兩者ノ何レカラ圍ワザルベカラズ
 - 一 盜難又ハ害敵ノ襲來ニ逢ヒ期セザルノ損害ヲ被ル事アリ
 - 一 一反歩ノ柑橘園ニ五十羽以上ノ放飼ヲナス時ハ年中過多ノ肥料ヲ欲スト同一ノ結果ヲ來シ晩秋ニ至ル迄新芽途長シ終ニ結實セザルニ至ル事アリ
 - 一 鷄虎列拉、赤痢、等近隣ニ發生シタル時之ヲ防止スルコト能ハズ
 - 一 柵飼トシテ不利ナル諸点ヲ述ブレバ次ノ如シ
 - 一 産卵數ハ放飼ニ及バズ
 - 一 鷄ノ種類ニヨリテハ脂肪鷄トナリ易シ
 - 一 注意ヲ怠ルトキハ寄生蟲ノ發生速ナリ
 - 一 放飼ニ比シ健康ヲ害フ事多ク殊ニ消化器病ニ侵サレ易シ
- 以上述ブル所ノ利害ハ單ニ一般ニ就テ摘録セシニスギズ故ニ各自々家ノ事情ニ鏡ミ

以テ其方針ヲ定ムベキナリ

果樹園藝ト養鶏

四四

果樹園ヲ有スルモノハ其樹下ニ鶏ノ放飼ヲ爲サバ二重ノ利益アリトハ普通一般ニ觀察セラル、所ナレドモ果樹園ノ一切ヲ舉テ養鶏ノ利益ノ伴フモノト速斷スルハ聊カ經卒ノ誹ヲ免カレズ故ニ是ガ利害ヲ述ブルモ敢テ途勞ニ非ザルベシ
即チ利益トシテ數ヘ得ベキ者ハ混蟲類ヲ啄食シテ植物ニハ害蟲ノ驅除ヲナシ得雜草ハ發生スルニ從而其稚芽ヲ食シ脱糞ハ直ニ肥料トナリテ果樹ヲ肥培ス（多數ノ放飼ハ不可ナリ前項參照）然レモ樹齡弱カキ時ハ幼芽ヲ損シ苔ヲ毀フガ故ニ稍生長シ此患ナキニ至リテ後鶏ヲ放ベツシ又葡萄ノ成熟セルモノ及梨花ハ鶏ノ嗜好スル者ナルヲ以テ共ニ其有害期ニ放飼ス可カラズ而シテ放飼ト柵飼ニ於ケル果樹ト家禽ノ關係ハ大ニ其趣ヲ異ニスル者アリ放飼ノ場合ニ有テハ柑橘類ノ如キ或ハ竹林ノ如キ最も適當ノ放飼場ナレドモ柵飼ニアリテハ其柵内ニ植ユルニハ必ズ落葉樹タラザルベカラズ限リアル小面積ノ柵内ニ常綠樹ヲ植ヘ其一半ノ地表ヲ之ガ爲メニ日光ノ直射ヲ妨グル時ハ自カラ陰濕ナラシメ産卵ヲ減ズル事著シキモノナリ故ニ柵内ニハ桐、胡桃、又ハ葡萄等ヲ可トス是等ノ樹ハ冬季落葉シテ地表ヲ日光ニ直射セシメ得

夏期ハ繁茂シテ暑熱ヲ遮ルノミナラズ六月中旬ヨリ八月ニ至ルノ間ハ此等ノ樹葉ニハ金龜子ノ好シテ其葉ヲ喰ハントシテ來集スルモノナルガ故ニ毎早朝鶏ヲ出シ樹幹ヲ一搖スレバ雜然トシテ轉落地ニ布クベシ而モ朝露其甲、翅ヲ潤ホシ軋ク飛ビ去ル能ハズ鶏ハ好シテ之ヲ喰ヒ亦特ニ動物質飼料ヲ給與スルノ要ナシ
果樹園ト養鶏ハ斯ノ如ク趣味アリ利益アルモノナレバ其數ト時季ト樹種トヲ考慮シテ事ニ從フベシ

如何ニシテ多クノ飼料ヲ得ルカ

農家ノ自家耕ス所ノ面積ニヨリテ鶏數ヲ定ムルハ別項已ニ述ブル所ノ如シ然レドモ其數ハ或ル發達セル二三ノ地方ヲ除キタル一般普通ノ農家ヲ標準トセル者ナリ今之ヲ發達セシ地方ニ比セバ優ニ尙二分ノ一以上ノ鶏數ヲ増加シ得ルノミナラズ更ニ各地ノ良法特長ヲ斟酌シテ少シク注意シテ方法ヲ講究セバ他ニ飼料ヲ仰ガズシテ能ク鶏數ヲ二倍シ得可シ今心付ケル二三ノ者ヲ舉グレバ秋期米穀收納ニ際シ粃糶ノ唐箕分ニ於テ地方地質作柄ノ如何ニヨリ差アリト雖モ平均反當五升以上ヲ増加シ得可シ此増加ハ一方ニ其量ヲ減ズベシト雖モ而モ善良ナルモノ、減量ニ非ズシテ青米、粃米、等ノ減量ニ外ナラズ之ヲ良米ニ混ズレバ全体ノ米質ヲ損ジ反テ利益ナラザル事

四五

ハ一般農家ノ己ニ認ムル所然レバ農家ノ多クハ之ヲ如何ニ處理シツ、アルカ團子其
 他ニ製シテ自家食物ノ補足トナスニ過ギズ今一般農家ノ普通糶糶トシテ牛馬ノ飼料
 ニ供シツ、アルモノハ一升ノ量目約百二三拾匁ノモノナリ之ヲ唐箕ノ力ヲ強フシテ
 一升百五十匁位迄ヲ風撰スルトセバ之ニヨリ稍充實セル糶糶ノ分ノミノ重量ハ百七
 八十匁ノ者ニシテ其糶糶壹升ヨリ得ル所ノ青米、糶米、等ハ多クモ二合ヲ出デザルナ
 リ更ニ品質ノ價值ヨリ謂ヘバ精米ノ半額ニ充タザル可シ然ル時ハ精立米一合ノ價ヲ
 以テ善良ナル鷄飼料ノ壹升ヲ得ル割合トナリ頗ル安價ナル飼料トス故ニ大坂愛知等
 ニ有テハ此方針ヲ以テ多量ノ飼料ヲ得、鷄ノ飼養ヲナサザル者ハ市場ニ出シ盛ニ其
 賣買ヲ見ル專業家ハ又之ニヨリテ業ヲ營メリ次ハ秋期稻葉ヲ喰フ所ノ蠱蝨ノ採取ト
 ス關東ニ於テハ人ノ食料ニ供シ小島灣開墾地ニ於テモ家禽飼料トシテ之ヲ採收ヲナシ
 効果ヲ得ツ、アリ之ガ採收ニハ二重ニ製セル捕虫網ヲ以テセバ小學兒童退校後ノ二
 三時間ニ平均三合前後ノ捕獲ハ難事ニアラズ之ヲ相當ノ價額ニテ買取其金ヲ以テ筆
 墨ノ料トシ或ハ貯蓄セシメバ直接ニハ鷄ノ良餌ヲ得ルト同時ニ捕獲、蓄積、等ノ利益
 アリ間接ニハ勤勉能ク富ヲ産ムテフ美德ヲ兒童ノ頭腦ニ感染セシムル事ヲ得ベシ斯
 ノ如クシテ集メタル蠱蝨ハ熱湯ヲ注ギテ之ヲ殺シ日乾シテ貯藏セバ親雞ヲ問ハズ最
 良ノ動物質飼料トナリテ價值穀類ニ優ルモノアリ豆畑、果樹等ニ群集シ來ル金龜子

モ蠱蝨ニハ及バズト雖モ又同一方法ニヨリテ貯藏シ得ルモノトス

次ハ畦畔、乃至屋後等ノ不用地ニ「クロバー」ノ種子ヲ撒布シ置カバ他ノ雜草ハ減少
 或ハ絶滅シ「クロバー」ノミ年ト共ニ繁茂シテ青葉類トシテ最良ノ家禽飼料ヲ得現
 ニ福岡縣立農事試驗場ニアリテモ僅々廿五坪ノ「ホワイトクロバー」ノ新葉ハ四月ヨ
 リ八月ニ至ル五ヶ月間毎日約壹貫目宛ヲ飼料トシテ刈取り其後ト雖モ十月迄ハ多少
 ノ收穫ヲ得其他雜穀ノ收納時期ニ於テモ稈糶ノ棄ツベキモノハ數日間鷄ニ搔啄セシ
 メテ後棄ツレバ其間ノ飼料ヲ捕フニ足ルベシ亦秋期蕎麥採收ノ後其稈ヲ束トシ各所
 ニ散ジ置ケバ數日ニシテ蟋蟀ノ巢淵トナリ夜間ハ出デ、食ヲ求ムレドモ晝間ハ其中
 ニ隠ル、ガ故ニ靜カニ稈束ヲ鷄ノ柵内ニ搬入シ其儘與フレバ搔撒ニ從テ出デ出ヅル
 ニ從テ啄食スヘシ
 以上ハ只一般ニ就テ行ヒ得ベキ方法ナリトス

如何ニシテ多産ナラシムルカ

産卵ノ良否ハ系統ニヨリ配偶ニヨリ年齢ニヨリ或ハ飼料又ハ運動場ノ面積等ニヨリ
 差異アルハ勿論ナレドモ而モ其等ノ事情相同ジキモノニシテ尙且ツ産卵ノ良否アリ
 是レ何ガ爲ニ此差ヲ生ズルカ其理由無カル可カラズ彼レニシテ平常快樂ヲ得セシム

ルト倦怠ナラシムルトハ實ニ其主因タルナリ故ニ朝晝二回ノ飼料ヲ過多ニ給スルハ倦怠ノ念ヲ起サシムベク一握ノ屑穀モ之ヲ給スルニ器ニ容ル、ト地上ニ散布スルトハ彼レガ食慾ヲ左右ス宜シク散布ス可シ又同シク散布スルモ粉糠乃至塵芥中ニ混ジ搔索啄食セシムレバ更ニ可ナリ要ハ能ク運動シ能ク食ハシムルニアリ

鶏卵貯藏法

食卵ヲ長日數貯藏スルヲ得バ價格ノ平均ト市價ヲ保ツ上ニ於テ大ニ有利ナリトス余ガ福岡縣農事試驗場ニ於テ四十一、四十二、ノ兩年度ニ行ヒタル成績ヲ摘録シテ參考ニ資セン

余ガ施行セシ試驗ハ四ヶ月以上ノ貯藏法並ニ大氣中ニ出シタル後ノ保持力試驗ニシテ即チ粉糠貯藏ハ百貳拾壹日乃至百四拾壹日間ノ貯藏ニ於テ卵殼ノ色ヲ損ジ若シクハ油浸樣斑点ヲ生ジ善良ノ者モ蛋黃膜破損シ不良ノモノハ腐敗シ居レリ石灰水貯藏ハ百四拾貳日間ノ貯藏ニ於テ卵殼ノ色澤ヲ變セズ氣胞ハ稍大ナルモ其他ニ變化ナク水「ガラス」濃液浸ハ百三十日間ノ貯藏ニ於テ卵殼洗滌後モ乾燥セバ僅微ノ白粉ヲ生ジ氣胞頗ル膨大シ比重千分ノ六十乃至七十八ヲ減シ水「ガラス」五倍液浸ハ百三十日間ノ貯藏ニ於テ外觀前者ト同シク内容ハ善良ノモノハ變化ナク不良ノモノモ氣胞稍

膨大セルノミ氷点前後ノ溫度ヲ有スル冷藏法ハ百二十三日間ノ貯藏ニ於テ外觀ノ變化ナク内容比重其他ニ些ノ變化ヲ認メズ「アイスタンク」貯藏及華氏氷点下二十度以下ノ塩水貯藏ニ有テハ僅々三十時間ニシテ卵殼破烈シ然ラザルモノモ蛋黃膜ノ破潰若クハ脆弱トナリ或ハ鹽分ヲ含ミテ貯藏ニ耐ヘズ而シテ亦冷藏卵ノ保持力ヲ試驗セシニ新鮮卵ト敢テ異ナル所ナカリシ是ニヨリテ見ル時ハ冷藏法ヲ最良トシ石灰水及水ガラス五倍液浸等之ニ次ギ其他ハ長日數ノ貯卵ニ耐ヘザル事ヲ認知シ得タリ更ニ有精卵ト無精卵トノ普通粉糠貯藏ニ於ケル保持力ヲ對照セシニ四十二年七月十六日ヨリ同月三十日迄ニ産シタル卵ノ有精ナル者ハ二十二日乃至三十四日間ニシテ蛋黃膜ノ破損或ハ蛋白質ノ白濁若クハ香氣ヲ失ヒ又ハ臭氣ヲ帶プル等何レモ腐敗ノ徵候ヲ呈セシモ無精卵ハ四十二年七月ニ至ル迄貯藏シ更ニ腐敗ノ徵候ヲ認メザルノミナラズ香氣ヲモ失ハザリシ然レドモ水分ハ著シク發散シテ淡蛋白ハ殆ンド認ムルヲ得ズ濃蛋白ハ稍金色ヲ帶ビ色澤粘液共ニ善良ナル水飴ノ如ク蛋黃ハ恰モ半熟卵ノ如ク最モ外皮ニ接近セル一部乃至半部ハ半結晶体ニ變シ重量十分ノ六乃至三、五ニ減ゼリ右ノ結果ニヨレバ貯藏卵トシテハ有精卵ヨリモ無精卵ノ方遙ニ優レルヲ知ベシ

鶏糞ノ價值並ニ使用法

一、二養鶏專業地ヲ除クノ外我邦一般ノ農家ハ鶏糞ヲ蔬菜類ノ肥料トセバ眼ヲ病ムト稱シ或ハ有毒ナリナド傳説シ來リ爲ニ或ル一、二植物ノ外之ヲ用ヒザル者多シ誤レルノ甚ダシキモノト云フベシ蓋シ新鮮ナル生糞ヲ直ニ植物ニ施與シ又ハ百合、馬鈴薯等ノ根菜類ニ多量用ユル時ハ尿素ノ爲メ細根ヲ害シ發育不良ニ陥リ甚ダシキハ枯死セシムル事アリ百合ノ如キハ鱗片ニ褐色斑点ヲ生ジ食膳ニ上ス能ハザルニ至ル事アリ有毒ノ説或ハ其基因是等ヨリ發セシニハ非ザルカ古來神肥ト稱シ一般農家ノ臭汚ヲ忍ンデ煙草其他二三特種作物ヲ除クノ外使用セザルモノ無キ人糞尿ト雖モ或ル程度ニ腐敗セシメザレバ同ジク尿素ノ害アルナリ然レドモ鶏糞ノ如ク濃厚ナラザルガ故ニ其害モ著シカラズ且ツ人糞尿ハ水ヲ加ヘ數日間腐熟セシメテ用ユルニ反シ鶏糞ニ至リテハ其使用法ヲ知ラズ乾燥若クハ腐熟セシメズシテ用ユルモノアルガ爲ノミ使用ノ方法ニシテ合理的タランカ三要素ノ配合適當ニシテ且ツ含有量多ク農家最良ノ肥料タルヲ得ン左ニ福岡縣立農事試驗場ニ於テ余ガ試驗セシ成績並ニ使用ノ方法ヲ略述シテ參考ニ資セン

鶏糞中ニ含有スル三要素ハ穀菜肥料トシテ何種ニ對シテモ略適當ノ配合ヲ有シ且ツ比較的多量ノ生産アルニ拘ハラズ之ヲ忽諸ニ附スルモノ多シ故ニ各種ノ飼料ニ就テハ之ガ生産量ヲ檢シ併テ其含有成分ノ試驗ヲ行ヒタルニ(1)小麥ノミヲ給セシハ一ケ

年九貫五百七十匁ヲ食シ五貫四百十匁(2)小麥ト青菜トヲ給セシモノニアリテハ小麥七貫九百七十五匁青菜九貫七百五十匁ヲ食シ四貫二百九十七匁(3)大豆ノミヲ給セシモノニアリテハ八貫七百廿八匁ヲ食シ五貫貳百十四匁(4)大豆ト青菜トヲ給セシモノニアリテハ大豆七貫四百八十一匁青菜六貫八百四十匁ヲ食シ七貫四百六十匁(5)大豆粕ノミヲ給セシモノニアリテハ十貫九百五十匁ヲ食シ五貫五百十九匁(6)米糠、麩、混合練餌ヲ給セシモノニアリテハ拾貳貫六百八十七匁ヲ食シ拾貫貳百五十四匁(7)同上練餌ト青菜トヲ給セシモノニアリテハ練餌拾壹貫六百三十三匁ト青菜八貫六百四十匁ヲ食シ九貫三百三十三匁ノ乾燥鶏糞ヲ得タリ而シテ之ガ含有成分及成分上ヨリ打算セシ價額ヲ示セバ次ノ如シ

成分含有率一ケ年一羽ノ脱糞中ニ含メル量窒素一貫目三圓五十錢		トシテノ價値	
窒素	磷酸	窒素	磷酸
(1) 三、五八	三、七六	一九四、	二〇三、
(2) 四、四九	三、三五	一九七、	一四七、
(3) 七、一八	四、〇六	三八四、	二二二、
(4) 七、〇七	一、三〇	五二七、	九七、
(5) 八、一四	二、八七	四四九、	一五八、
			一、二四、九

6) 一、五七 七、二〇 一六一、 七三三、 九六、三
 (7) 一、五五 四、七八 一四六、 四四三、 七一、九
 平均四、八〇 三、九〇 二九四、 二八五、 九三、九

以上ハ加里ヲ除キタル計算ナレトモ加里ハ平均約百分ノ一内外ノ含有量ト見テ大差ナカラシ今之ヲ含有成分ヨリ計算シテ菜種粕ヲ求メンカ六貫七百匁ヲ要スベシ然バ拾五羽ノ鶏ヲ飼養セバ百貫目ノ油粕ヲ得ルト同一肥料ヲ生産ス豈忽諸ニ附スベケンヤ而シテ之ガ使用法ハ普通日乾シテ貯藏シ必要ニ應ジテ灰其他ノ肥料ト混合シ原肥ニ用ヒ又分解シ易キ肥料ナルガ故ニ一タビ乾燥セシメタルモノヲ液肥トシテ補肥トナスモ可ナリ或ハ生糞ノ儘堆肥ニ混ズル時ハ能ク醱酵シ堆肥ノ腐熟速カニシテ且ツ善良ナル堆肥ヲ得ベシ

疾病及害虫

家禽ノ疾病モ其種類頗ル多クシテ今之ヲ詳細ニ記述センニハ一ツノ専門書トナリテ限リアル小冊子ハ能ク盡シ得ベキ所ニアラザルノミナラズ又普通副業的ニ飼養スルモノ、必要ヲ認メザレバ茲ニハ主ナルモノ數種ニ止ムベシ

由來家禽ハ牛馬ノ如ク高價ノモノニ非ザレバ重難病ト見做タル時ハ速ニ賣却シテ傳

染ヲ防ギ煩ヲ免カル、ニ若カズト雖モ良系統ノ種禽ノ如キハ時ニ或ハ治療ノ必要ナシトモザレバ其大要ヲ記サン

家禽虎列刺 本病ノ潜伏期ハ大約二十四時間以内トス經過迅速ニシテ生前症候ヲ觀察スルハ眼ナキ者アリ發病後四五時間以上ヲ保ツモノハ病狀ハ倦怠沈鬱ハ歩行セシムルモ孱弱ニシテ歩調確實ナラズ翼ヲ垂下シ俯首屈身シ時々地ヲ爬搔シテ苦悶ノ狀ヲ顯ハス多數同時ニ發病スルトキハ集團シ食慾歇ミ渴甚ダシク頻ニ飲水ス初期ニハ下痢ヲナシ帶緑黄色ノ軟便ヲ泄シ次第白色粘液ヲ瀉泄スルニ至ル而シテ臭氣甚シク漸ク頻繁ヲ加フルニ及ンデ稀薄トナリ粘稠性ヲ失フ眼瞼ハ閉塞シ眼球ハ急速ニ陥没シ遂ニ起立シ能ハザルニ至ル其死スルニ先ダテ泡沫ニ富メル唾液ヲ漏ラシ白色又ハ灰白色ノ液汁ヲ肛門ヨリ出シ帶黄白色ノ液汁ヲ嘔吐スルモノアリ

本病ハ恐ルベキ傳染性ヲ有スルガ故ニ速ニ健鶏ヲ隔離シ屠殺燒棄シ「ホルマリン」消毒ヲ行ヒ健鶏ハ速ニ血清注射ヲ爲シテ蔓延ヲ防グ外施スベキ方法ナシ

赤痢 人類ニ於ケルモノト同一ナリ而シテ鶏ニ最モ多ク發病ス鷓ハ稍感受性ヲ有スルニ過ギズ本病ハ鷓ヨリ人牀ニ傳染シ又人牀ヨリ彼ニ傳染ス故ニ治療センヨリハ寧ろ屠殺燒棄スルノ安全ナルニ若カズ

實扶的里 鷓及鷓ハ本病ニ罹リ易シ禽之ニ侵サルレバ速ニ傳染ス

本病ハ鼻腔粘膜、眼瞼粘膜等ヲ侵シ口窩、咽頭、喉頭、氣管等ノ粘膜胞ニ達ス時トシテ
 消化器粘膜ヲ侵シ口角及眼瞼附近ノ皮膚ニ及ボスコトアリ患部ハ著シク潮紅シ時ヲ
 經レバ滲漏液ヲ生ズ約二十時間ニシテ液量増加シ液面乾固シテ粘稠乾酪ノ被膜ヲ生
 ズ大氣ニ觸レテ乾燥スレバ脆軟龜裂ノ痂ヲ生ズ其患部ノ異ナルニ從ヒ症候一ナラズ
 本病ノ初期ハ腸加答兒ヲ發スルモノ多ク鶏ハ疲勞倦怠シテ意氣消沈シ之ヲ捉フル
 モ敢テ抵抗セズ羽毛頗ル光澤ヲ失フ然レドモ産卵ヲ繼續スルモノアリ經過ハ概子倦
 慢ニシテ急激ナルモノ少ナシ晩春ヨリ初秋ノ頃迄ハ雛ニ多ク發生シ全群ヲ斃スコト
 アリ

療法 千倍乃至二千倍ノ昇汞又ハ皓礬水ヲ患部ニ塗布スベシ又百倍乃至二百倍ノ
 苦列阿林溶液ノ蒸氣吸入法ヲ施シ百倍ノ鹽酸加溜謨液ヲ毎日三回一食匙宛服用セシ
 ム又平易ナル患部塗布劑トシテ余ガ試驗場ニ於テ試驗セシ結果ニヨレバ濃食鹽水、
 「クレオリン」二百倍溶液一合ニ對シ「フォルマリン」五六滴ヲ混加セシモノ等ハ其効
 昇汞水ニ優レルモノノ如シ

鶏痘 本病モ亦實扶的里ノ一種ニシテ八、九、両月ノ候發シ殊ニ雛鶏ヲ侵ス顔面、
 脚、及翼肩部ヲ侵シ小ハ粟粒大ヨリ大ナルハ豆大ニ至ル褐色ノ痂ヲ生シ之ヲ剝クト
 キハ膿ヲ有シ或ハ濁血滲出ス

療法ハ前者ト同一方法ニテ可ナレドモ患部ニ菜種油ヲ塗布スレバ數日乃至十數日ニ
 シテ治スベシ初期ニ注意セバ斃死ヲ免カルベシ

ループ病 本病ハ家禽ノ疾病中最モ多ク且ツ傳染性ヲ有スル恐ルベキ病ノ一ナリ
 徵候ハ鼻腔加答兒ノ劇症ナルモノト殆ンド同一ナリ内毗ニ泡沫ヲ生シ眼圍腫起ス
 療法 急性ノモノハ反而治療シ易シ酢又ハ醋酸ニ適宜水ヲ加ヘ眼、顔面、鼻孔、等
 ヲ一日二、三回洗滌シ後水分ヲ拭ヒ去ルベシ水ニ代ユルニ牛乳ヲ以テ酢ニ混加シ用
 ヲレバ更ニ良好ナリ又内服藥トシテ硫酸鐵粉末、〇、五瓦「カブシカム」粉末一、〇瓦、
 甘草越斯一五、〇瓦ノ合劑ヲ丸藥トシ一日二回宛十日ニ分服セシムベシ

以上ノ諸病ハ何レモ傳染性ナルガ故ニ隔離ト消毒ヲ怠ルベカラズ消毒法トシテハ虎
 列拉ハ日光消毒最モ有効ナリトス其他ハ「フォルマリン」壹ポンド(四十%)ノモノヲ
 約八升以上一斗ノ水ニ混和シタルモノ或ハ五十倍ノ石炭酸、八百倍乃至、千倍ノ昇汞
 水、百倍ノ「クレオリン液」等ヲ用ユベシ

疹癩 (白冠、足瘡、脚癩) 本病ハ脚及頭部ニ發シ或ハ冠ヲ侵ス初期ハ症候顯著ナラ
 ズ脚ニ發スルモノハ鱗片ニ糠疹ヲ生シ漸次肥厚シテ黃色ヲ呈ス頭部ヲ侵ストキハ肉
 冠ヲ其根ニ白色斑点生ジ「字若クハ圓形ノ線ヲ現ハシ柔軟ナル鱗片様上皮ノ皮ヲ被
 ルモノナリ

療法 患部ヲ温湯ニテ洗滌シ水銀軟膏ヲ塗布スベシ脚部ニアリテハ苦利沙羅並軟膏ヲ用ユル方効多シ或ハ石油ヲ以テ洗滌スルモ亦効アリ

繚蟲 繚蟲ノ寄生ニヨリ發スル症候ハ顯著ナラザルモノ多シ夥シク寄生スル時ハ下痢ヲ發スルコトアリト雖モ生前毫モ病徴ヲ顯ハサザルモノアリ

療法 檳榔子末二、五瓦ヲ牛酪ニ加シ一日ノ量トシ内服セシム

以上ノ二病ハ何レモ寄生蟲病トス

鼻腔加答兒 (感冒) 本病ハ人畜ノ感冒ト同ジク鼻孔ヨリ稀薄水樣或ハ粘汁ヲ漏出ス重症ニアリテハ「ル」病ニ變ズル事アリ

療法 鼻腔ヲ酢又ハ硼酸温湯ニテ洗ヒ居所ヲ温暖清潔ナラシムベシ内服藥ハ「ル」ニ準シ又木炭末三、〇新鮮ナル酵母二、〇小麥粉一、〇硫黃華二、〇ヲ混加シ丸藥トシ一日三四回ニ分服セシムルモ可ナリ又初期ニ有テハ夕刻小盃一杯位ノ清酒ヲ飲下セシメ夜間温暖ノ場所ニ置ク時ハ著シク發汗シテ全治スルコトアリ

氣管技加答兒 本病ハ咽喉部ニ雜音ヲ發シ時々咳嗽ス

療法 初期ニアリテハ乾燥温暖ノ場所ニ移セバ概ネ自然ニ恢復スベシ稍重症ニアリテハ甘汞〇、〇六瓦吐酒石〇、〇〇八瓦ヲ夜間頓服セシムベシ

又參兒ノ吸入法ヲ施スモ効アリ

以上ノ二病ハ呼吸器病ト稱ス

前胃炎 本病ハ衝動過劇ノ食餌ヲ多食セシムルトキ多ク發病ス徵候ハ倦怠食ヲ嫌ヒ漸次衰弱ス

療法 淡泊ニシテ消化シ易キ餌ヲ食セシメ水ヲ節シ菜ヲ多ク給シ硫酸鐵〇、一瓦又ハ林擒鐵丁幾五、〇瓦蕃椒丁幾五、〇瓦ノ合劑ヲ一日二回ニ五乃至十滴ヲ水ニ加シ内服セシムベシ

嚔囊食滯 本病ハ飼料ヲ換タル時又ハ不良ノ食餌或ハ前胃ニ通過シ難キ程大ナル者ヲ嚔下シタル時ニ發ス症候ハ嚔囊膨大シテ一夜ヲ經過スルモ縮少セズ指頭ヲ以テ之ヲ試摘スル時ハ著シク堅キモノアリ又水ヲ滿タセルガ如キアリ堅キハ寧ろ輕ク水樣ナルハ重症トス俗ニ餌持ト稱ス

療法 其堅キモノハ少量ノ水又ハ蓖麻子油ヲ飲マシメ數時間絶食セシムルレバ治スルコトアリ稍重症ニアリテハ嚔囊ヲ切開シ稀薄ナル酒精ヲ以テ内部ヲ洗滌シ嚔囊内ノ物質ハ悉ク之ヲ除棄シ然後皮膚ヲ縫合シ二三日間新鮮ニシテ消化シ易キ食餌ヲ給スベシ豆腐、米飯ノ水洗シタルモノ等之ニ適ス

又水樣物ヲ滿セルモノニアリテハ頭ヲ下ニシ除ロニ嚔囊ヲ壓スル時ハ臭氣アル濁汁ヲ吐出スベシ更ニ清水ニ少量ノ酒精ヲ混加シタルモノヲ多量ニ強飲セシメ直チニ又

吐出セシム斯ノ如ク反復シテ四五回之ヲ行ヒ然ル後細剝セル青菜ト軟餌ノ少量ヲ給シ決シテ多食セシム可カラズ爾後内服薬トシテハ前胃炎ト同ジク或ハ二三滴ノ格魯答因ヲ水ニ加シ内服セシムルモ可ナリ

下痢 稀薄水様ノ糞汁ヲ通利ス

療法 格魯答因數滴ヲ水ニ加シ内服セシメ温暖ナル場所ニ移スベシ或ハ蓖麻子油

一〇、〇瓦ヲ頓服セシメ約半日絶食セシメタル後軟餌ヲ給スベシ

以上ノ三症ハ消化器病トス尙病症頗ル多シト雖モ茲ニハ其中ノ主ナルモノノミヲ記シ他ハ省略セリ

羽虫 羽虫ハ大小長短數種アリ鶏体ニ寄生シ常ニ血液ヲ吸收シ羽軸ノ凹所及羽毛ノ間ニ隠ル之ヲ驅除スルニハ種々ノ方法アリト雖モ最モ輕便ナルハ善良ナル除虫菊粉「ノミトリ」粉ヲ右指ニ摘ミ左手ヲ以テ鶏ノ羽毛ヲ逆立セシメツ、其間ニ撒布スベシ而シテ之ヲ行フニハ日沒就寝前ニナスヲ可トス隔日ニ行ヒテ三四回ニ及ベバ殆ンド驅除シ盡スヲ得ベシ

糞虫 糞虫ハ形狀前者ニ比シ圓ク大ナルハ「胡麻粒小ナルハ「ケシ」粒位ニシテ鶏舎塙木等ノ間隙ニ潛ミ夜間鶏体ヲ襲ヒテ血液ヲ吸收シ鶏ノ安眠ヲ妨グ此害虫一度發生シタルトキハ容易ニ驅除スル「能ハズ故ニ其發生セザルニ先ダテテ舎ノ清潔ニ

注意シ時々生灰、硫黄末、等ヲ撒布シ其發生ヲ防グベシ若シ發生シタルハ熱湯洗滌、三乃至四%ノ苦麗阿林液洗滌、石油撒布(噴霧器ヲ用エベシ)等ハ有効ナリト雖モ數回反覆スルニ非ザレバ効ナシ然レモ糞虫發生シタルハ其害ヲ軽減スベキ便法アリ即チ止リ木ヲ四脚ノモノトシ土器ノ如キモノニ水ヲ盛リ中ニ石油數滴ヲ注入シ其中ニ止リ木ノ脚ヲ浸シテ夜間襲來ノ途ヲ絶ツベシ而シテ一方舎内ニ潛メルモノハ驅除ノ方ヲ反覆スベシ

距切斷法 雄鶏ノ老齡ニ達シタルモノハ著シク距ノ發達シ其尖端ヲ以テ往々交尾ノ際雌鶏ノ背部ヲ裂傷スルモノアリ故ニ距ハ或ル程度ニ止メ著シク發達セシモノハ之ヲ切斷スルヲ可トス其方法ハ種々アリト雖モ大根、蕪ノ類ヲ距ヲ殘サント欲スル丈ケノ長サノ厚サヲ有スル輪切トナシ其中央ニ距ヲ貫キ燒鑊ヲ以テ距ノ先端ヨリ燒縮スベシ然ルハ脚ニ熱ヲ及ボサズ根菜ノ斷面ニ至リテ停止シ安全ニ距ヲ短縮セシメ得ベシ

閹鶏ノ利益並ニ去勢術

雌ヲ孵化セシムレバ平均其半数ハ雄鶏ヲ生ズベシ而シテ雌鶏ハ生産スベキモ雄鶏ハ不生産ニシテ單ニ成長ノ後屠殺用トシテ賣却スルノ一途有ノミ而モ雌鶏ニ比シテ價

額低廉ナルノミナラズ、毳羽同棲セシムレバ、嫉妬ハ闘争トナリテ、遂ニ一羽ノ優勝者ノ爲ニ他ノ多ク、完全ナル發育ヲ妨ゲラレ甚シキハ、衰弱ヲ來シ或ハ疾病ヲ醸スニ至ルベシ然ルニ此等不利ノ雄鶏ヲシテ去勢ヲ行ヒ、闘鶏ト爲サバ、性温良トナリ春情ヲ失フガ故ニ闘争スルコトナク雌鶏ノ如ク、數多群居セシメ得ルノミナラズ、肉量ヲ増加シ肉味ヲ佳良ナラシメ之ヲ賣却スルニ當リテハ、價額雌鶏ヨリモ騰ク、体量普通ノ雄鶏ヲ凌ギ又自家ノ食膳ニ供セバ、肉質多漿柔軟ニシテ脂肪豊多香氣ニ富ミ、髓カニ舌鼓ニ價スベシ左ニ去勢術ノ大略ヲ述ベ以テ參考ニ資セン

去勢ヲ行フニ適當ナルハ、孵化後三ヶ月前後トス而シテ之ヲ行ハハ嚴寒、雨天、等ハ可成是ヲ避クルヲ可トス蓋シ切開部ノ化膿又ハ凍傷ノ患アルガ故ナリ而シテ施術セント欲スル時ハ前日ヨリ食餌ヲ停止シ置クヲ要ス然ラザレバ、施術ニ際シ出血多ク或ハ罌丸除去ニ當リテ大小腸ノ膨滿ニヨリテ、施術ニ不便ヲ感ズレバナリ彌々施術セントスル時ハ、兩翼ヲ背部ニテ緊縛シ、兩脚ヲ右脚ヲ稍下方ニ出シテ拘束シ右方ヲ上部トシ、横臥セシメ先ツ局部ノ羽毛ノ拔ギ去リ昇汞水(千倍)又ハ酒精ヲ以テ消毒シ、最季ノ肋骨ノ外側ニ添フテ腹部ヨリ背部ニ向テ約一寸前後ヲ切開スベシ此切開ニ當リ、臀部ノ筋ヲ切斷シ又ハ傷ツクル時ハ塞トナリテ步行シ得ザルモノナレバ、筋肉ハ可成下方ヘ引曳シテ手術スベシ而シテ切開シタル場所ニハ、開創攝子又ハ開張桿

ヲ以テ五七分創口ヲ開キ内臓ヲ傷害セザル様腹膜ヲ切開スベシ罌丸ハ肋骨ノ下ヨリ二枚目ニ當ル所ノ背部ノ内面ニ附着シ居ルモノナレバ、創口ヨリ之ヲ覗視シ罌丸ニ掩フ所ノ膜ヲ破リテ下部即チ左方ノ罌丸ヨリ拾取スベシ
拾取ノ方法ハ、小孔ヲ有スル管ニ馬尾毛又ハ細キ金線ヲ以テ其一端ヲ環狀トナシ其環ニ罌丸ヲ掛ケ他ノ一端ヨリ引絞リテ脱落セシメ後攝子ニテ取出スベシ罌丸ノ形狀ハ稍曲玉狀ヲナセル長橢圓形ニシテ帶黃白色ヲ呈ス而シテ左右罌丸ノ中央ニ大動脈縱走セリ若シ之ヲ傷ツケ出血セシムル時ハ二三分時ニシテ斃ル、者トス故ニ能ク注意スベシ又手術中各所ノ創部ヨリ多少ノ出血アリタル時ハ「ガーゼ」脱脂綿等ニテ除カニ拭ヒ取ルベシ手術終ラバ創口ヲ縫合針ヲ以テ縫合シ其上ヲ「コールター」ルヲ塗布シ置ケバ五七日ニシテ治癒スベシ
施術後ハ青葉ト滋養ニ富メル軟餌ト水トヲ給シ除々普通飼料ニ移スベシ或ル一派ノ學者間ニハ左右兩方ヨリ切開シ一方ヨリ一個宛ヲ除去スベク説クモノアレドモ畢竟熟練ナク又タ經濟的頭腦ヲ欠ゲル學者ノ卓上論ニ過ギザルナリ試ニ思ヘ同一手術ヲ兩側ニ行フハ時間ニ於テ二倍ヲ要スルノミナラズ創口、苦痛共ニ之ニ伴フニアラズヤ若シ除去ノ不完全ヲ謂ハバ技術ノ拙劣ヲ自白スルニアラザレバ、玩弄的養鶏家タルノミ
因ニ闘鶏ハ、施術後五ヶ月上十ヶ月以内ヲ以テ屠殺ノ良期トス

産業組合ノ必要並ニ定款、及細則

産業組合ノ必要ナル今茲ニ喋々説述スルノ要ナシ故ニ本業ニ關スル産業組合ニ付農商務大臣ノ訓令ヲ左ニ掲ゲテ説明ニ代ユ

家禽業ニ關スル産業組合ニ付農商務大臣ノ訓令

明治四十年四月二十九日
農商務省訓令第八號

家禽飼養ノ事業ハ農家ノ副業トシテ簡易ニ行ハレ且其ノ收益鮮少ニアラザレヲ以テ此ガ獎勵ニ就テハ屢々訓示スル所アリ近頃飼禽者ノ増加ヲ見ルニ至レルモ其ノ生産ハ未ダ需要ヲ充タスコト能ハズ軌近海外ヨリ輸入スル鶏卵ノ價格一年一百萬圓ヲ超ヘ尙且漸次増加スルノ景況ヲ呈セリ

本邦家禽業ノ萎靡振ハザル所以ヲ察スルニ在來禽種ハ劣等ニシテ採卵用又ハ肉用トシテ不適當ナルト飼養管理方法ノ宜シカラザルトニ依リ且飼禽者ガ其ノ生産物ヲ適當ノ價格ヲ以テ販賣スルノ難キニ職由セザルハナシ故ニ斯業ノ發達ヲ企圖セムニハ之ニ從事スル者ヲシテ販賣組合ヲ設立セシメ共同シテ其生産物ヲ市場又ハ消費者ニ

販賣セシメバ仲介者ニ利益ヲ壟斷セラル、弊ナク能ク各自ノ利益ヲ増進スル事ヲ得ム加之尙斯業ニ關シ信用組合、購買組合、生産組合ヲ設立セシメバ資金融通餘財ノ貯蓄家禽及飼料ノ購買機械ノ使用等ニ利便ヲ得テ斯業ハ堅實ニ農家ノ副業ト爲スコトヲ得ベシ

往年家禽ノ改良及其ノ飼養獎勵ノ唱道セラル、ヤ鶏一羽數十圓卵一顆數圓ノ高價ヲ以テ販賣スル者アルニ至リ却テ家禽業ノ發達ヲ阻害セリ今ヤ農商務省ハ海外ヨリ種禽ヲ輸入シテ之ヲ蕃殖シ漸次一般希望者ニ頒タムトス抑モ家禽ノ貴ブベキハ實益的ナルニ在リ決シテ種類ノ珍奇ニ非ラズ又姿體ノ美ト羽毛ノ麗トニ非ラズ要スルニ其ノ純粹種ナルト雜種ナルトヲ問ハズ卵ノ多産ト肉ノ豊優トニ在ルナリ宜シク家禽業ニ關スル産業組合ノ設立ヲ獎勵スルニ際シ家禽飼養ノ目的ヲ愆ル勿カラシメ家禽業者ヲシテ既往ノ惡轍ヲ履マズ健全ナル發達ヲ遂ケシムルコトヲ期スベシ

家禽産業組合模範定款

左ノ定款ハ朝倉郡夜須村字篠隈ノ有志ノ乞ニヨリ本省ノ示セル模範定款ヲ基素トシテ之ニ生産ノ一項ヲ加ヘ且ツ細則ヲ附シ與ヘタル者ナレバ探テ以テ本書ニ掲ゲ其一例ヲ示スコト、セリ

有限責任何々家禽生産購買販賣組合定款

第一章 總 則

- 第一條 本組合ハ左ノ事業ヲ營ムヲ以テ目的トス
 - 一 種禽ヲ飼養シテ組合員ニ種卵ヲ供給スルコト
 - 二 養禽ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト
 - 三 組合員ノ委託ヲ受ケ其生産シタル家禽、卵、及副産物ヲ販賣スルコト
- 第二條 本組合ハ有限責任何々組合ト稱ス
- 第三條 本組合ノ組織ハ有限責任トス
- 第四條 本組合ノ區域ハ何縣何郡何町村トス
- 第五條 本組合ノ事務所ハ之ヲ何縣何郡何町村何番地ニ置ク
- 第六條 組合員タル者ハ本組合ノ區域内ニ住スル年齢十五歳以上ノモノニテ五羽以上ノ養禽ヲ爲ス者ニ限ル
- 第七條 組合員ハ本組合ト同一ノ目的ヲ有スル他ノ組合ニ加入スルコトヲ得ズ
- 第八條 組合員ノ持分ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム
 - 一 出資額ニ相當スル財産ニ對シテハ出資額ニ應ジ算定ス

- 二 準備金ニ對シテハ拂込済出資累計額ニ應シ年度毎ニ之ヲ算定加算ス
 - 三 特別積立金ニ對シテハ組合ヨリ購買シ及組合ニ委託シテ販賣シタル物品ノ價格ヲ合計シタル金額ニ應シ年度毎ニ之ヲ算定加算ス
 - 組合ニ損失アリタル時ハ之ヲ填補シタル組合財産ノ科目ニ對スル前年度末ニ於ケル持分ニ按分シテ控除シ持分ヲ算定ス第十六條第二項ニ依リ特別積立金ヲ設備費、償却又ハ臨時ノ支出ニ使用シタル場合ニ於テ亦同シ
- 組合財産ガ出資額ヨリ減少シタルトキハ出資口數ニ應シ持分ヲ算定ス

第二章 出資及準備金

- 第九條 出資一口ノ金額ハ金拾圓トス
- 第十條 出資第一回拂込金額ハ一口ニ付金壹圓トス
- 第十一條 第一回拂込後ハ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノ、外組合員ハ出資各口ニ付毎年一月末及七月末迄ニ各金十錢以上ヲ拂込ムコトヲ要ス
- 第十二條 産業組合法第十五條第二項第三號ノ事項ニ付テハ毎年七月三十一日迄ニ一回ニ取纏メテ記載ヲ爲ハモノトス
- 第十三條 組合員其ノ出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其ノ拂込ムベキ金額ノ百分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴收ス

第十四條 準備金ノ額ハ出資總額ト同額トシ其ノ額ニ達スル迄每事業年度ノ剩餘金三分ノ一以上ヲ積立ツルモノトス

第十五條 加入金、過怠金及第六十五條ニ依リ一分ノ拂戻ヲ爲シタル持分ノ剩餘ハ之ヲ準備金ニ繰入ル、モノトス

第十六條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シタル剩餘ノ少クトモ二分ノ一ハ特別積立金トシテ之ヲ積立ツルモノトス

特別積立金ハ損失填補又ハ組合ノ事業ニ必要ナル設備費ノ償却ニ充ツルモノトス但シ總會ノ決議ニ依リ事業資金ノ融通其ノ他ニ之ヲ利用シ又ハ臨時ノ支出ニ之ヲ使用スルコトヲ得

剩餘金ヨリ準備金、特別積立金ヲ控除シテ尙殘餘アルトキハ之ヲ配當金ト爲スモノトス

第十七條 準備金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行若ハ一個人ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ總會ノ承認ヲ經タル地方債券ヲ買入レ又ハ總會ノ承認ヲ經テ事業資金ニ融通スルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ズ

第三章 組合ノ機關

第十八條 本組合ニ理事三名、監事二名ヲ置ク

理事ハ組合長一名ヲ互選ス

第十九條 理事ノ任期ハ三ケ年トシ監事ノ任期ハ二ケ年トス但シ再選ヲ妨ケズ補闕選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事及監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄ノ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十條 辭任其ノ他ノ事由ニ因リ理事又ハ監事ニ闕員ヲ生ジタルトキハ通常總會ヲ待ツコト能ハザル場合ニ限り臨時總會ニ於テ補闕選舉ヲ爲スモノトス

總會ガ理事又ハ監事ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其ノ補闕選舉ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 總會ハ通常總會及臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回一月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

- 一 理事ガ必要ト認メタルトキ
 - 二 監事ガ産業組合法第三十四條ニ依リ必要ト認メタルトキ
 - 三 總組合員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及招集ノ理由ヲ示シテ請求シタルトキ
- 第二十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ招集者之ニ記名スルコトヲ要ス

第二十三條 總會ハ總組合員ノ半數以上出席スルニ非ザレハ開會スルコトヲ得ズ若シ半數ニ充タザルトキハ十日以内ニ更ニ招集シ出席シタル組合員ヲ以テ開會ス

前項ノ場合ニ於ケル決議ハ出席シタル組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

理事及監事ノ選任及解任、定款ノ變更、除名、解散及合併ノ決議ハ總組合員半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十四條 總會ノ議長ハ組合長之ニ當ル組合長事故アルハ理事ノ一人之ニ代ル

但シ總會ニ於テ必要ト認ムルトキハ出席組合員中ヨリ之ヲ互選スルコトヲ得

第二十五條 組合員ハ五人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ズ

第二十六條 總會ノ決議録ハ理事之ヲ作り議長及監事之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十七條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十八條 理事ノ内二名ハ有給トシ其ノ他ノ理事及監事ハ名譽職トス

第二十九條 本組合ニ書記一名ヲ置キ理事之ヲ任免ス

書記ハ理事及監事ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三十條 理事ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ技能アル者ヲ協議員ト爲スコトヲ得協議員ハ理事ノ諮問ニ答ヘ又ハ組合ノ事業ニ付理事ニ意見ヲ開陳スルモノトス

第三十一條

本組合ニ世話掛何名ヲ置キ組合員中ヨリ之ヲ委嘱ス

世話掛ハ理事ノ指定ニ依リ組合業務ノ執行上必要ナル事務ヲ掌ルモノトス

第四章 事業ノ執行

第三十二條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三十三條 組合ニ餘裕金アルトキハ總會ノ承認ヲ經タル銀行若ハ一個人ニ之ヲ預入ル、モノトス

第三十四條 事業執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

生産ノ部

第三十五條 種卵ノ供給ヲ受ケント欲スルモノハ春秋ノ期節及ビ其數量ヲ記載シテ理事ニ申出ルコトヲ要ス

第三十六條 組合員ガ種卵ノ供給ヲ請求シ得ル範圍ハ出資一口毎ニ一期ニ付貳拾五個事業年度内ニ六拾個以内トス

但種卵ニ餘リアルトキハ此限リニ非ズ

期間ハ一月ヨリ四月迄五月ヨリ八月迄九月ヨリ十二月迄各一期トス

第三十七條 種卵ノ供給ヲ受ケタルモノハ其代金ヲ支拂フコトヲ要ス但價格ハ種卵一個ニ付食卵三個ニ相當スル金額以内ニ於テ之ヲ定ム

第三十八條 前條ノ代金ハ供給ヲ受ケタル翌月末迄ニ支拂フコトヲ要ス
 組合員前項ノ支拂ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其支拂フベキ金額ノ千分ノ五
 ニ相當スル過怠金ヲ徴收ス
 第三十九條 組合ニ於テ生産シタル種卵ハ組合員ノ請求ニ應ジタル上尙餘リアル場
 合ニハ相當ノ價格ヲ以テ組合員以外ノ者ノ請求ニ應ズルコトヲ得

購買ノ部

第四十條 本組合ニ於テ購買スル物品左ノ如シ
 一 種禽、種卵、
 二 養禽ニ係ル一切ノ器具
 三 飼料、藥品
 四 其他總會ノ決議ヲ經タル物品
 第四十一條 組合員ハ理事ノ承諾ヲ經ルニ非ザレバ組合外ヨリ前條ノ物品ヲ購買ス
 ルコトヲ得ズ
 第四十二條 理事ハ組合員ノ需要ヲ調査シ又ハ其ノ注文ニ應ジ第三十五條ノ物品ヲ
 便宜購買スルモノトス
 第四十三條 組合員ニ賣却スル物品ノ代價ハ市價ヲ標準トシテ理事之ヲ定ム

第四十四條 理事ハ必要アルトキハ時期ヲ指定シテ組合員ニ注文物品ノ見積代金ノ
 一部ヲ提供セシムルコトヲ得
 第四十五條 組合員組合ヨリ物品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ引取ル
 コトヲ要ス
 第四十六條 組合員ハ物品引取ト同時ニ其代金ヲ支拂フコトヲ要ス
 但シ止ムコトヲ得ザル理由アル時ハ六ヶ月ヲ超ヘザル期間代金支拂ノ延期ヲ請求
 スルコトヲ得
 前項但書ノ場合ニ於テハ百圓ニ付何錢以内ニ於テ理事ノ定メタル利息ヲ附スルモ
 ノトス
 第四十七條 理事代金支拂ノ延期ヲ承諾スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ組
 合員ヲシテ保証人ヲ立テシムルコトヲ得

販賣ノ部

第四十八條 本組合ニ於テ販賣スル物品ハ家禽、卵、羽毛及糞トス
 第四十九條 組合員ハ理事ノ承諾ヲ經ルニ非ザレバ組合ニ委託セズシテ前條ノ物品
 ヲ販賣スルコトヲ得ズ
 第五十條 理事ハ組合員カ物品ヲ組合ニ差出スベキ時期ヲ指定スルコトヲ得

第五十一條 組合ガ組合員ヨリ物品ヲ受取リタルトキハ其ノ數量及品等ヲ査定シ理事之ヲ組合員ニ通知スルモノトス

前項ノ査定ノ方法及標準ハ豫メ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

受取物品中品等不良ナルモノハ之ヲ組合員ニ返付スルコトヲ得

第五十二條 組合員ハ其ノ賣却セントスル物品ニ付代價又ハ賣却ノ時期ヲ指定スルコトヲ得ズ

第五十三條 組合員ハ組合ニ物品ヲ引渡シタル後ハ何時ニテモ代金ノ假渡ヲ請求スルコトヲ得但シ其額ハ物品時價ノ十分ノ八以内ニ於テ理事之ヲ定ム

前項ノ假渡金ニ對シテハ百圓ニ付何錢以内ニ於テ事理ノ定メタル日歩ヲ支拂フコトヲ要ス

第五十四條 本組合ハ組合員ニ拂渡スベキ物品ノ代金ニ付總會ノ定メタル歩合金ヲ收納ス

第五十五條 販賣シタル物品ノ代金ハ組合ニ於テ現金ヲ受取タルト否トニ拘ハラズ毎年六月末及十二月末ノ二期ニ分テ各品等ニ付之ヲ計算シ組合員カ委託シタル物品ノ數量ニ應シテ之ヲ配分スルモノトス

假渡ヲ受ケタル組合員ニ付テハ前項ノ場合ニ於テ差引計算ヲナスモノトス

第五十六條 物品受取當中ニ賣却スルコト能ハザリシ物品ニ付テハ其後ニ賣却シタル同品等物品ノ代金中ヨリ先ツ其ノ代金ヲ配分スルモノトス

第五十七條 物品受取後ノ危険ハ組合ノ負擔トス

第五章 剩餘金所分及損失填補

第五十八條 剩餘金ハ準備金及特別積立金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シタル後ニ有ザレハ之ヲ組合員ニ配當スルコトヲ得ズ

前項ノ配當ハ其ノ年度ニ於テ組合ヨリ購賣シ及組合ニ委託シテ販賣シタル物品ノ價格ヲ合計シタル金額ニ應ジテ之ヲ爲スモノトス

第五十九條 損失ノ填補ハ先ヅ特別積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス

第六章 加入及脱退

第六十條 新ニ組合員タラントスル者ハ毎年十二月中ニ申込書ニ加入金二十錢ヲ添ヘ理事ニ差出スコトヲ要ス

理事前項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨加入者ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿ニ記載ヲナスコトヲ要ス

第六十一條 組合員其ノ持分ヲ讓渡サルトキハ理事ノ承諾ヲ要ス
持分ノ讓受人組合員ニ非サル者ナルトキハ加入金及出資ノ拂込ヲ爲サシメザルノ

外前項ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 組合員脫退セムトスルトキハ少クトモ其ノ事業年度末六ケ月前ニ其ノ旨理事ニ豫告スルコトヲ要ス

第六十三條 死亡ニ因リ脱退シタル組合員ノ相續人カ直ニ加入ノ手續ヲ爲シタルハ組合ハ被相續人ニ對スル持分ノ拂戻計算ヲ爲サズシテ之ヲ被相續人ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノト看做ス此場合ニ於テハ加入金ヲ差出スコトヲ要セズ

第六十四條 組合員左ノ事由ノ一ニ當ルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス
一 出資ノ拂戻又ハ購買物品ノ代金ノ支拂ヲ忘リ期限後一ヶ月以内ニ其ノ義務ヲ履行セザルトキ

二 組合員ヨリ購買シタル物品ヲ轉賣シタルトキ

三 自己ノ生産シタルモノニ非ザル物品ノ販賣ヲ委託シタルトキ

四 第四十一條又ハ第四十九條ノ規定ニ違背シ物品ヲ購買又ハ販賣シタルトキ

五 組合ノ事業ヲ妨グル所爲アリタルトキ

六 犯罪其ノ他ノ所爲ニ依リ信用ヲ失ヒタルトキ

第六十五條 組合員脫退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ其ノ拂込濟出資額ニ止マルモノトス但シ死亡、禁治產其ノ他ノ總會ニ於テ止ムコトヲ得ザル者ト認メタル事由

ニ因リ脱退シタル組合員ニハ持分ノ全部ヲ拂戻スモノトス

除名若ハ轉住ノ爲又ハ死亡ノ爲脱退シタル組合員ニ拂戻スヘキ持分ハ脱退當時ノ財産ニ依リ之ヲ定ム此場合ニ於ケル轉住又ハ死亡ノ爲脱退シタル組合員ニ對シテハ拂込濟出資額及前年度末ニ於ケル準備金及特別積立金ニ對スル持分ニ相當スル金額ヲ拂戻スモノトス但シ第六十三條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 組合ノ解散

第六十六條 本組合解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル

第八章 附 則

第六十七條 本組合設立當時ノ理事及監事ヲ定ムルコト左ノ如シ
但シ第一回通常總會ニ於テ之ヲ改選ス

理	理	理	理	理
事	事	事	事	事
何	何	何	何	何
某	某	某	某	某

組合種禽ノ保持及ビ種禽管理者手當細則

- 第一條 本組合ハ二種ノ種禽ヲ撰定シ理事ノ適任ト認メタル組合員ニ種禽ヲ養飼セシム
- 第二條 本組合ニ保持スベキ種禽ノ數ハ組合員全部ノ親禽飼養數ノ百分ノ八ヲ下ラザル範圍トス
但傳染病其他不得止場合ハ此限リニ非ズ
- 第三條 種禽ハ一雄ニ對シ六雌乃至二雄ニ對シ十一雌以上ノ雌ヲ配スル事ヲ得ズ
- 第四條 種禽ハ組合員ノ飼鷄中ヨリ優良ナルモノヲ撰拔シテ之ニ充ツ
- 第五條 種禽トシテ撰拔セラレタル種禽ノ代價ハ屠殺鷄ノ市價ヲ標準トシテ之ニ体量一斤ニ付貳拾錢ヲ加ヘタル金額ト定ム
- 第六條 組合員ガ自己ノ飼養鷄ヲ種禽トシテ撰拔セラレタル片ハ第五條ニ定メタル代價ヲ以テ組合ニ引渡ヲナスモノトス
- 第七條 種禽ハ産卵ヲ始メテヨリ滿二ケ年以上飼養スルモノトス
- 第八條 種禽ハ親族ノ配偶ヲ避クル爲三年目毎ニ種雄ノ半數ヲ他ヨリ購入スルモノトス

- 第九條 種禽管理者ニシテ自己ノ過失ノ爲メ死ニ至ラシメタル片又ハ盜難紛失等ノ場合ハ直ニ之ヲ理事ニ申告シ理事ノ命ニヨリテ種禽ノ補填ヲナスベシ
 - 第十條 第九條ニヨリ補充スベキ種禽ノ代價ハ管理者ノ負擔トス
 - 第十一條 組合員ニシテ一代雜種々卵ノ請求ヲ爲シタル場合ニハ雌雄ノ一方ヲ提供セシムルヲアルベシ
 - 第十二條 組合員ハ理事ノ承諾ヲ經スシテ種卵ヲ他ヨリ購入シ又ハ自家生産ノ卵ヲ孵化スル事ヲ得ズ
 - 第十三條 種禽管理者ノ手當ハ種卵供給高ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ト種禽一羽ニ對シ一ケ年參拾六錢宛トス
 - 第十四條 種禽管理者ハ種禽ニ用ユベキ飼料ノ種類及量ヲ理事ニ報告スベシ
 - 第十五條 飼料ノ種類ニシテ理事ガ不適當ト認メタル片ハ飼料ノ變更ヲ命ズルヲアルベシ
- 此場合ニ於テハ管理者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 第十六條 飼料價格暴騰シ食卵十個ノ賣却代金ヲ以テ二十八羽一日ノ飼料ヲ支辨シ能ハザル片ハ其不足額ハ組合費ヲ以テ補助スルモノトス

家庭教育ト副業養鶏

七八

農家ノ副業トシテ少数ノ飼鶏ヲナスハ農家經濟上最モ必要事タルノミナラズ家庭ノ教育ニ於テモ亦最モ必要ナルモノアリ茲ニ其以所ヲ説キテ副業的養鶏ノ一層普及セシメザルベカラザルコトヲ世ニ警告セント欲ス

副業ノ種類タルヤ其數頗ル多ク園藝アリ、養蚕アリ、養蜂アリ、養豚アリ、農産製造アリ、各種ノ工業アリ凡百ノ手藝アリテ枚擧ニ暇アラズト雖モ何レモ各地方ノ情態ニヨリテ其撰ヲ異ニシ絶對ニ不可能ナルモノアリ然レモ養鶏ノ一事ニ至リテハ殆ンド不可能ノ地ナク加之ナラズ其收入ハ時季ニヨリテ差アリト雖モ亦殆ンド不生産ノ期ナシ其設備ニ至リテハ劣等ナル工業、手藝ニハ及バズト雖モ養蚕、養豚、園藝等ニ比セバ頗ル容易ナリトス其收入シ得ル金額ノ多寡ノ如キハ今茲ニ斷言シ得ズト雖モ煩勞ニ比例シテ敢テ遜色ナキハ余輩ノ信ジテ疑ナキ所ナリ而モ是等ハ物質的ノ計數ノミ我等ニ襲テ第二ノ社會ヲ形成スベキ兒童ノ教育ハ決シテ學校教育ニノミ委スベキニ非ズ家庭ニ於ケル教育ト即チ居常ノ一切ハ是レ家庭ノ教育ニシテ偉大ノ感化ヲ兒童ニ與ソル者ナラン知育ハ之ヲ學ビノ園ニ收メ德育ハ之ヲ家庭園藝ノ間ニ感受セシメテ初メテ完全ナル教育ト云フヲ得ン若夫知育ノミニ流レ德育ナキ者アラバ萬卷ノ

書ヲ讀ミ字内ノ事物之ヲ極メザルナシト雖モ社會ハ之ヲ排斥シテ容レザルベシ假令目ニ一丁字ヲ介セザルモ德備アラバ社會ノ同情ハ期セズシテ是ニ集マリ身ハ襁褓ヲ纏フトモ敢テ恥ル所無ク其終リヲ全フシ得ベシ德化ノ力斯ノ如ク偉大リ之ヲ受クル因家庭ニアリ古聖猛子ノ母其居ヲ移シ其機ヲ斷チテ其子ヲ教ヘタルモノ即チ家庭教育ノ必要ヲ語リテ餘蘊ナシ然レモ復雜ナル現社會ニ於テ萬人ノ能ク其居ヲ移シテ子弟ヲ教フルヲ得ンヤ

母鶏ノ其雛ヲ愛シニ其切ナル母子恩愛ノ情、之ヲ憐々ノ間ニ目繋シ或ハ夫妻相扶クルモノ實ニ平和ノ權化ニシテ神ノ誨ニ似タルモノアリ又一握ノ餌ニ懷キテ主ヲ慕ヒ或ハ愛育ニ報ズルニ美ナル良卵ヲ捧グルガ如キ等一事一物之ガ自然ヲ窺ガハバ趣味ハ湧然トシテ泉ノ如ク殆ンド其盡ルナキモノアラン而モ時代ノ要求ニ伴フ勤勉富ヲ産ムテフ美懼ハ日毎ノ愛育ニヨリテ得ベキ良卵ノ常ニ之ヲ語り資蓄ノ念之ヲ助長セシムルニハ又鶏卵ハ寄ルノ最モ簡易良法タルニ若クモノナカラン愛情斯ノ如ク生産年周ナル、恐ラクバ便ニ斯ノ如ク具備スルモノナカラン是レ余ガ家庭教育ト副業養鶏ノ一項ヲ設ケタル以所ナリ若夫レ無情無趣味ノモノニ至リテハ死生モ亦解セザルベシ大聖ハ能ク無情点滴ノ水ニヨリテ乾坤ヲ語り得ベキモノミ

副業ノ養鶏 第二版終

七九

附 錄

福岡縣家禽業ノ消長並ニ全國産卵額

福岡縣ニ於ケル家禽ノ流行ハ明治三十八年ハ其萌芽ヲ生ジ翌三十九年其絶頂ニ達セリ余ガ本縣ニ赴任セシハ此流行ノ頂上タリシ三十九年ノ秋ナリ而シテ四十年ニ至リ流行次第ニ衰ヘ聲漸ク低ク遞退今日ニ至ル然レモ空聲虚吠ノミ其實際ニ至リテハ年ト共ニ生産ノ増加ヲ見ル是レ流行ニ代ルニ實業ヲ以テスルモノ洵ニ喜ブベキ現象ナリトス今ヤ職ヲ辭シテ郷里ニ歸ルニ當リ在職中ノ浮沈消長ヲ玆ニ記スルモ亦一種ノ紀念ナラン乎

最近福岡縣統計書ノ示ス所即左ノ如シ

郡市	飼養戸數	鶏 數	産 卵 數	合計價格
	戸	羽	個	圓
福岡	三九〇	三、六〇〇	一四、〇〇〇	四、七八〇
粕屋	五、七八九	四四、八五	一、二六、四〇〇	三九、七五〇
宗像	五、七六六	五四、〇二二	一、二〇六、六二七	四八、三六二
遠賀	五、〇九七	五一、五二〇	一、〇六〇、九九二	四七、六〇五

鞍手	六、三八六	五三、二九七	一、二九、九二七	四九、二八四
嘉穂	四、九一九	三二、一四六	四六九、四〇九	三三、三三五
朝倉	七、三三三	六〇、七九〇	一、四八八、七〇四	五五、二七四
筑紫	五、三三五	五三、八二〇	九九八、〇〇六	四四、三五六
早良	一、七八八	一六、七〇七	四〇九、三七〇	一四、六六〇
糸島	三、九八八	二九、一六七	九三二、五三三	三〇、五二二
久留米	一七一	六三〇	二八、〇〇〇	一、〇四六
浮羽	四、七五五	一九、〇七一	三六〇、七五九	一七、二三四
三井	八、二三〇	五四、七三六	一、六八五、三七五	五四、一四五
三井	七、〇三九	三七、〇八三	一、二七〇、〇五九	四二、七六八
八女	六、五五二	三六、八二七	一、七〇〇、五三三	四九、四五六
山門	四、八八三	二七、三六六	五〇七、一四三	二二、九四
三池	三、〇三二	二二、七六〇	一、〇六五、二八〇	二四、一四二
小倉	四〇	三九〇	一五、〇〇〇	六六〇
門司	一五三	七五五	三二、一四〇	一、一四〇
企救	四、〇八四	二六、七〇八	七〇一、二六六	二六、三四

田川	五、二三四	二七、八一	一、二七三、四一〇	四四、〇一九
京都	二、九〇七	二〇、三九五	一、二六一、〇〇〇	三一、九二四
築上	三、六二四	一六、二一〇	五五八、六二八	一九、九五二
合計	九七、〇〇九	六八〇、四七〇	一九、三八六、〇四九	七〇二、五二五
四十年	九九、四〇八	七三三、六九三	一八、二八三、六七八	七〇八、六三六
卅九年度	九一、三九	五九九、九〇五	一四、九四、一四六	六三三、七四六
卅八年度	八二、六〇〇	四五五、四〇〇	一二、四四、七六七	四九三、三七六

尙四十一年二月農商務省ノ調査セシ各府縣ノ鶏卵産出額ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

百萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
八拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
六拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
五拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
四拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
三拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
貳拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
百萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
八拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
六拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
五拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
四拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
三拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣
貳拾萬圓以上	千葉縣	茨城縣	愛知縣	新瀉縣	埼玉縣	兵庫縣	大阪府	秋田縣

拾萬圓以上

東京府	京都府	奈良縣	山梨縣	滋賀縣	岩手縣	青森縣
山形縣	石川縣	富山縣	嶋根縣	香川縣	大分縣	和歌山縣
佐賀縣						

拾萬圓以下

福井縣	鳥取縣	沖繩縣
-----	-----	-----

合計

四十年	一四、二九七、八六六圓
三十九年	一三、一一三、三七一圓
三十八年	一〇、五六六、六七四圓

又全國卵ノ平均價額ハ左ノ如シ (但百個ニ付)

圓

圓

三十三年	二、〇七	三十四年	一、九五
三十五年	一、八四	三十六年	一、九八
三十七年	二、〇五	三十八年	二、三八
三十九年	二、三三	四十年	二、三六

副業ノ養鶏附録第二版終

82
650
687

明治四十三年十一月十日印刷

明治四十三年十一月三十日發行

定價金貳拾五錢

著者 水野久一郎

福岡縣筑紫郡住吉村春吉
西中洲八百六拾壹番地

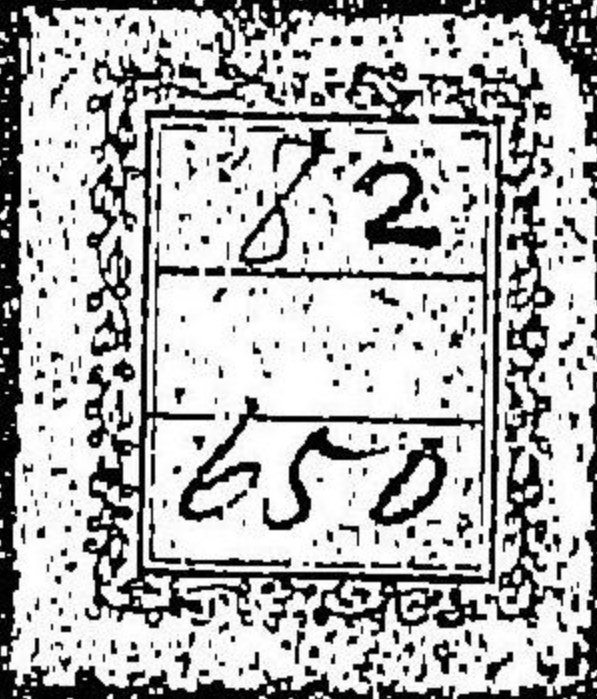
發行者 三阪富次郎

全縣全郡全村全番地

印刷所 三阪日英堂

82
650





065035-000-2

82-650

副業ノ養鶏

水野 久一郎ノ著

M43.11

CCD-0509

